

招集告示年月日		平成 30 年 12 月 4 日		招集場所		津南町役場議場	
開会	平成 30 年 12 月 12 日午前 10 時 00 分			閉会	平成 30 年 12 月 14 日午後 12 時 03 分		
応招・ 不応招 出席・ 欠席の別	議席番号	議員名	応招等の別	議席番号	議員名	応招等の別	
	1 番	半戸義昭	応・出	8 番	津端眞一	応・出	
	2 番	村山道明	応・出	9 番	大平謙一	応・出	
	3 番	石田タマエ	応・出	10 番	河田強一	応・出	
	4 番	風巻光明	応・出	11 番	藤ノ木浩子	応・出	
	5 番	筒井秀樹	応・出	12 番	吉野徹	応・出	
	6 番	栞原洋子	応・出	13 番	恩田稔	応・出	
	7 番	中山弘	応・出	14 番	草津進	応・出	
地方自治法 第 121 条の 規定により 説明のため 出席した者 の職・氏名 (出席者： ○印)	職名	氏名	出席者	職名	氏名	出席者	
	町長	桑原悠	○	税務町民課長	高橋隆明	○	
	副町長	小野塚均	○	地域振興課長 農業委員会事務局長	村山詳吾	○	
	教育長	桑原正	○	建設課長	柳澤康義	○	
	農業委員会 長	涌井直		教育委員会教育次長	上村栄一	○	
	監査委員	藤ノ木勤		会計管理者	板場康之	○	
	総務課長	根津和博	○	病院事務長	桑原次郎	○	
	福祉保健課長	高橋秀幸	○				
職務のため出席した者の職・氏名	議会事務局長		高橋昌史		議会事務局班長		石沢和也
会議録署名議員	4 番	風巻光明		10 番	河田強一		

[付議事件]

(12月13日)

日程第1 一般質問

議長の開議宣告

議長（草津 進）

これより本日の会議を開きます。本日の議事日程はお手元に配布したとおりです。

—（午前10時00分）—

日 程 第 1

一般質問

議長（草津 進）

昨日に引き続き、一般質問を行います。

通告に従って、順次発言を許可いたします。

質問は1回目は演壇で、2回目以降は質問席で行ってください。

なお、一般質問は1議員につきおおむね60分以内に制限し、3回以上の発言を許可いたします。質問、答弁は簡潔明瞭をお願いいたします。

議長（草津 進）

12番、吉野徹議員。

（12番）吉野 徹

通告をいたしました大きく2点ありますが、どうぞよろしく願いいたします。

1. まず1点目でございますけれども、今後の財政支援についてお尋ねいたします。平成30年度、31年度2か年で見直しされる各種補助金の内容につきまして、そして、町の普通財産の中で特にいまだ方向性の定まっていない「宝山荘」、そして、地域住民で立ち上げたと思われ「竜神の館」、また、平成2年にオープンされ、今後、維持修繕、多額な資金が必要とされると思われ「萌木の里」、今後の財政支援と取組についてお尋ねいたします。

関連で、民間との協調。関連施設の老朽化比率についてもお尋ねいたします。

2. もう1点でございますけれども、徴収をされております入湯税の用途についてお尋ねいたします。徴収をしている入湯税は、一般会計に組み込まれておりますけれども、新しく観光条例等の設置をしていただく可能性、そして、その現状把握をしていただきまして、観光振興に役立てることができるようにしていただけないものか、これは支援でございますけれども、それらの可能性について伺います。

議長（草津 進）

答弁を求めます。

町長。

町長（桑原 悠）

吉野徹議員にお答えいたします。

1点目、「今後の財政支援について、見直しされる各種補助金の内容は」という御質問です。厳しい財政状況のなかで最小限のコストで最大限の効果を上げることが使命であり、それぞれの業務について思い切った見直しを行う必要があります。補助金・負担金については全てを洗い出し、補助金については142事業、負担金については200事業ありました。これらについて、町民生活に欠かせない事業であるか、経費負担の在り方は適正であるか、費用対効果は適切であるか、補助金交付団体の活動内容と決算状況等、予算査定に合わせ多くの視点から見直しを進めているところであります。ただし、既に以前から精査していることから、すぐに多額の削減効果が生まれるというのではなく、事業そのものの転換や廃止も検討しなければならないと考えています。

次に、『宝山荘』や『竜神の館』など観光施設への支援」であります。『宝山荘』については、まだ具体化されておらず、維持管理費に年間33万円程度を支出しております。9月議会でも申し上げましたが、仮に何らかのかたちで建て替えることになっても、全ての経費を町が負担することは考えておりません。「株式会社竜ヶ窪温泉」につきましては、平成8年に開業後、22年の歳月とともに地域農業情勢の変化や少子高齢化、発足当時の意識の希薄化、次世代への思いの継承がなかったことなどにより、年々利用者が減少しております。その対策として、今年夏に開催された「大地の芸術祭」の作品設置、巡回バスの運行、イベントの開催、食堂のテナント導入など集客の増加に取り組んでおりますが、経営状況はなかなか改善されず、大変厳しい状況にあると認識いたしております。町としても、地域住民の憩いの場である農作業の疲れを癒す保養の場として、施設維持のためできる限りの支援を検討してまいりたいと考えております。今年の株主総会で役員改選が行われ、上段地区6集落から推薦された取締役6人が選任されました。現在、取締役を中心に業務改善計画を立てて、短期的・中期的な活動及び経営予測を行いながら、赤字解消に向けて取組を進めております。地域住民と共に盛り上がり、経営改善を進めていただきたいと考えております。「萌木の里」については、平成17年から現在の受託者に委託しており、秋山郷観光の中核施設として運営をいただいております。秋山郷への観光来訪者が伸び悩むなか、「萌木の里」への入館者も厳しい状況となっております。町財政状況も厳しいなか、更なる委託料の増加はできないため、受託者の経営努力に期待するところですが、町としても秋山郷観光を重要視しておりますので、秋山郷観光の今後の方向性もしっかり検討したうえで適切な支援を行いたいと考えております。

民間との協調ということですが、今後、公共施設等の維持補修、更新費用が増大してくることから、財政負担の軽減、平準化を図っておく必要があります。管理運営に当たっては、指定管理委託のほか、PPP、PFIなども検討していく必要があると考えております。お尋ねの試算老朽化比率ですが、土地以外の償却資産の取得価格に対する減価償却累計額の割合を計算することにより、耐用年数に対して償却資産の取得からどの程度経過しているかを全体として把握することができます。100%に近いほど老朽化が進んでいると言えますが、各施設の老朽化比率は、「竜神の館」が95.4%、「萌木の里」が83.33%、「宝山荘」は当初の取得価格が不明ですが、耐用年数を考えると100%に近い数値になると思われます。

二つ目に、「入湯税の使途について」の御質問にお答えいたします。入湯税につきましては、議員も御承知のとおり、地方税法や町の入湯税条例に規定されているとおり使い道が指定されている目的税となっております。その使途は、環境衛生施設、鉱泉源の保護管理施設及び消防施設、その他消防活動に必要な施設の整備並びに観光施設の整備を含む観光振興に要する費用に充てることとなっております。当町で一般会計に計上されております入湯税につきましては、年間おおむね700万円ほどの実績となっておりますが、それは現在、町内の温泉施設や観光施設の整備費や維持管理費、委託料の経費に充当してい

るところであります。また、観光条例設置につきましては、目的・効果などを明確にしなければならぬため、本町にとっての必要性・有用性を検討しなければならないと考えております。

壇上からは以上です。

議長（草津 進）

12番、吉野徹議員。

（12番）吉野 徹

再質問をいたします。

今ほど町長からお話をいただきました。先ほども述べましたけれども、各種補助金の見直しということからでございます。この2年間でなされると伺っておりました。今もお答えがございました。現段階での各種団体との折衝につきましてお尋ねいたします。いろんな団体の方々も新年度に向けまして事業計画とか予算案とか、そういったものを作っておられると思っておりますけれども、その折衝につきまして、いつ頃からそういった事業をどのようなかたちでお始めになるのか、その行程につきまして教えてください。と言いますのは、今ほどお話をいたしましたけれども、そういった団体につきましては、事業計画がそろそろ始まっていると思ひまして、その影響が大変心配をされるわけでございます。事業との均一化をもちろん図っていただかなければいけないわけですがございますけれども、各種団体とか、そういった事業をやっておられる組織の方々は大変心配しておられると思っておりますので、そのことにつきまして教えてください。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

町長査定がまだ始まっておりませんで、今、事務方のほうで査定が始まっているところでございますが、スケジュール的なものは総務課長がお答えいたします。

議長（草津 進）

総務課長。

総務課長（根津和博）

補助金もいろいろな種類がございます。まず、町外の法令外団体につきましては、十日町市のほうで査定をしております。その数値を今要求しているところでございます。その査定は、十日町市がやっております。町内法令外団体の申請が上がってきておひまして、今ほど査定の中で各団体の決算状況とか事業計画とかを見ながら、今査定を進めているところでございます。あと、いろいろな補助金がほかにもあるわけですが、例えば問題となっておりますバスの補助金とかここら辺は当然、関係団体、バス事業者、栄村さんとの関係もあり、町独自では査定ができないものもございますので、今後、関係団体と協議しながら事業を見直していきたいと考えております。それぞれの補助金によってやり方が変わってくるというところでございます。

議長（草津 進）

12 番、吉野徹議員。

（12 番）吉野 徹

今ほど、総務課長のほうからお話いただきましたけれども、住民が特に今年、町にもお世話になりました公共交通のことにつきましては、長野県を含めて、栄村さんを含めて、そんな話が持ち上がっておりますので、本当に地域住民の声をそれとは別によく聴いていただきまして、そういった方々の声も是非反映をしていただきたいと思っております。是非ともよろしく願いいたします。それから、そのことにつきましても、全てを平成 30 年度、31 年度と私は思っておりませんが、なかなかそういった地域の方々と町行政との均一化が図れない部分がございますので、そういったところを 1 回、2 回で決めることなく、いつ頃そういった話合いが持てるか、そういったことをお教えいただければ大変幸いに思いますので、決まりましたら是非お願いいたします。11 月 27 日頃から第 1 回の予算査定が始まっていると思っておりますので、是非よろしく願いいたします。

次に、「萌木の里」、「竜神の館」、「宝山荘」の施設のことなのでありますけれども、「宝山荘」はお聞きいたしました。できるだけ早くそういった方向性を出していただきたいと思っております。私たち町議会にも公共施設管理計画とか財政の処理の概要などを前に配布していただきました。資料からでございますけれども、今後、施設の維持につきましては、40 年間の更新費用の総額は全て直しますと 883.5 億円でしょうか。その試算が出されておりました。それは、それら期間における 1 年間の平均費用が 22 億円ということで、それも試算されておりました。過去、平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 年間の既存の公共施設の更新に町が掛けた費用が約 7.9 億円という記載もございました。さらに、保有している公共施設を全て維持するとなると、今後 40 年間の支出がこれまでの約 2.8 倍になると、そういった計算も出ております。歳出できる財源は、本当に我が町にとっては限界に近いと思っておりますけれど、町長はどのようにお考えなのでしょうか。しかし、本当に住民にとりまして必要な施設は、町の責務におきまして守っていただきたいと、それも私も思っております。町の財産につきましては、自主財源の約 2.5 倍が依存財源であることや、町財政の健全化判断比率や、もちろん町財政の充当可能金額などは前に提示をしていただきました。それを考慮されたなかで関係地域の方々が懸命に頑張っておられる、今お話がありました「竜神の館」。先ほど、町長からは「できる限り支援をしていきたい。」というお話がありましたけれど、もちろん財源には頭打ちがあると思っております。もう一つ、観光施設の一つでもある「萌木の里」の施設維持につきましては、新年度に向けまして、どのような指針を持って新年度にお進みになるのか、その二つの施設につきまして、もう少し詳細に教えてください。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

今ほど、吉野議員からいろいろな数値的なものを列挙していただきました。修繕については、とにかく予算の範囲内で優先順位を付けながら、毎年必要最小限の範囲で修繕をしているというような状況であります。

次の「竜神の館」であります。「竜神の館」については、今ほど町長が答弁したとおりでありまして、地域の皆さんが今懸命に経営改善の方策を探っているというような状況であります。町としても、

その状況はしっかりと見守りたいと思っております。この中で「できる限りの支援」というような表現をしてありますけれども、これについては、例えばどういう項目が支援できるのか、その辺のところも十分にこれから精査して、また新年度予算で予算付けが必要であるとすれば、予算を計上させていただきたいと考えております。

「萌木の里」につきましては、御承知のとおり委託料が今、年間400万円です。町も財政事情が非常に厳しいですから、これを増というのはちょっと難しいのかなと考えております。400万円をある程度一つの目安として、どの程度の額が適当なのか、今後、予算査定の中でしっかりと検討をして、新年度予算に計上させていただきたいと考えております。

議長（草津 進）

12番、吉野徹議員。

（12番）吉野 徹

今ほど、副町長のお話をいただきましたけれども、二つの施設につきまして、そこを管理しておられる代表者の方々と個人的に折衝というか、そういった予算面ですとか、これからの経営につきましての面談というか会は持たれているのでしょうか。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

「竜神の館」については、私どもは何回か今の経営陣と打合せをさせていただいております。経営内容を聞いたり、今後どう経営を改善していくのかとか、施設の状態等も私どもも見させていただいております。それから、「萌木の里」についても、今までに何回か打合せはしております。ただ、具体的に予算的なものをどうのこうのというところまでは、話はしておりません。

議長（草津 進）

12番、吉野徹議員。

（12番）吉野 徹

先ほど町長のお話にもありましたけれども、もちろん全て行政、町のほうにお願いするのではなくて、本当に個々の努力が必要でございます。公共の施設を預かっているわけでございますので、それを経営しておられる方も努力が少ない部分もあると思っております。そのなかで、そういった面につきまして、やはり町のほうから本当にそういったものにつきましても指示をしていただかなければ、私はいけないと思っております。

それから、今ほども町長からお話がありましたけれども、資料の中にもPPP、PFI、そういった民間資金を導入してということで記載をされておりました。今ほども町長からお話がありましたけれども、その具体性につきましては、現段階でその二つの施設につきまして、PPP、PFI等の民間資金については、どのように考えていらっしゃるのでしょうか。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

PPPは、要は官民で協働でというようなことかと思えます。その中にいろんなやり方があって、きっとその一つとしてPFI、あるいは管理委託というのがあると思っています。今、その二つの施設について、すぐに別の形態でというようなことは考えておりません。また、別の形態にすることがより有利だというようなことが出てくるとすれば検討はしますけれども、現時点では、今までどおりということで考えております。

議長（草津 進）

12番、吉野徹議員。

（12番）吉野 徹

もちろん私も現時点ですぐに民間施設うんぬんとは正直に言って考えておりませんし、それは無理だと思っております。しかし、そういった二施設につきましては、もちろんこれから老朽化が進んでくるわけでありまして、今ほど町長からもお話がありましたけれども、老朽化比率は「竜神の館」が95.4%、「萌木の里」が83.33%、言い換えれば、修繕・修復をしなければいけないという話であります。しかしながら、これを維持するうえでは、やはり大変町からの出資がございまして、地方債などのそういった債務が生じてくると思っております。ですから、なおのこと、今ほど副町長から「現時点では、早急には考えていない。」というお話がありましたけれども、やはりこういったものを考えてきちんとした方向性を出さなければ。維持・修繕は本当にこれから年々掛かってくるものでありますので、せつかく平成30年度、31年度かけまして全ての補助金とかそういったものを見直しされるのでありますら、そういった施設につきましてもきちんとしたなかで管理をして考えていただきたいと思っております。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

決して、このPPP、PFIというものを私も否定するつもりは全くありません。町の財政にとってより有利なことになるとすれば、それはもう真剣に検討しなければならないと思っております。ただ、吉野議員もこの辺は御存じだと思うのですけれども、ただPFIをやればいいのか、あるいは管理委託してしまえばいいとかということではないと思いますので、当然それなりにやはり町の財政負担も絡んできます。ですから、最終的には、どういうやり方が一番効率良くその施設を運営できるかと、その辺のところを判断基準として、どういう方法でやるかというのは考えさせていただきたいと考えております。

議長（草津 進）

12番、吉野徹議員。

(12 番) 吉野 徹

今ほど、答えをいただきましたけれども、その施設の管理計画の方針の中で、私たちがいただきました資料の中にフォローアップについても記載がありました。公立の施設ごとに再編整備計画等そういったものを策定いたしまして、具体的な取組を今後進めていかれるという、そういった文書も載っておりました。そういった事業につきましても、これは PPP、PFI とも関連するわけでございますけれども、新年度からそのフォローアップにつきまして、施設ごとの詳細などをきつと御理解していると思っておりますけれども、今後、何年間くらいのスパンを持ってそういった計画を進めていかれるのか教えてください。

議長 (草津 進)

総務課長。

総務課長 (根津和博)

今後、公共施設の方向性を定めるに当たって、個別計画を作成していく予定でございますけれども、平成 32 年度中には策定したい方向で今のところ検討しているところでございます。

議長 (草津 進)

12 番、吉野徹議員。

(12 番) 吉野 徹

しつこくて本当に申し訳ないのでありますけれども、そのフォローアップにつきまして、平成 32 年度から進めていかれるということでございますので、そうすると再来年ということになりまして、町の各種補助金の見直しが終わってそれからということになるわけでございます。総務課長は、現段階でそのフォローアップにつきまして、どういった数式で、例えば何年間くらいのスパンを持って計画をしていかれるのか、今の時点で教えてください。

議長 (草津 進)

総務課長。

総務課長 (根津和博)

私個人的な考え方といえば、スピード感を持って策定していく必要があると思います。平成 32 年度中には計画したいと考えておりますが、それはどういう陣容でというお話なのだと思いますけれども、当然、行政だけではできないことだとは考えております。今、副町長から PPP、PFI の話もございましたけれども、そういう経営のノウハウとかは、民間の方も行政よりも相当知識があることもありますので、民間ならではの創意工夫やノウハウ、アイデア等もいただく必要があろうかと思っておりますので、行政だけではないようなかたちで検討していきたいと考えております。

議長 (草津 進)

12 番、吉野徹議員。

(12 番) 吉野 徹

私は今回の質問の中で、その二つの施設につきまして今ほどお話をいただきましたけれども、本当に我が町にとりましてその二施設ばかりではなくて、本当にいろんな、例えば「マウンテンパーク津南」もありますし、「リバーサイド津南」もございまして、「観光物産館」もございまして、いろんな施設があるわけでございます。ただ、そういったものを全て本当にこれから検討して、より良い方向性を見つけて進めなければいけないわけでございます。1年や2年でできると私は思っておりません。しかしながら、町長が一番御心配しておられる町の財政ですね。いつも口にされて御心配している桑原町長でございますので、是非そういった面も含めまして、全て見直しをされるのでありましたら、我が議会にも、町民にも、そういった方向性だけを早急に進めていただきたいと思います。そのことにつきまして、もう1点、町長。

議長 (草津 進)

町長。

町長 (桑原 悠)

吉野議員から公共施設等管理総合計画についてのレビューと、今後どうしていくのかという御質問を何度かいただきました。私もあのまま全部を維持していくということでいくと、数字から見ても大変厳しいものがあると思っております。それだけでなく、今現在、行政を運営するなかでも特に建設課関係の費用など、老朽化比率も出ましたけれど、壊れたら直すというようなことになっておまして、壊れる前に直すということがなかなかできない状況にもあります。そのようななかで、皆さんが丁寧に管理して使っているというのが現状だと思います。大変工夫して頑張らなければならないなど思っています。個々の施設に関しては、今、問題が上がってきました「萌木の里」でありましたり、また、株主として関わっております「竜神の館」でありましたり、個々の問題が次々と上がってきておりますなかで今対処している状況ですが、総務課長が言いましたように平成32年度を掛けて検討していきたいという方向でおりますので、地域と丁寧に話し合いを進めるなかで計画を作っていきたいと思っております。

議長 (草津 進)

12番、吉野徹議員。

(12 番) 吉野 徹

町長に今お話をいただきましたが繰り返すようでもありますけれども、そういった施設ばかりではなくて、これから検討しなくてはいけない新保育園とか衛生施設、また、ほかに「ニュー・グリーンピア津南」を含めていろんな施設がありますので、是非とも早急にそういった方向性を見いだすように考えていただきたいと思います。

最後にもう1点でございますけれども、お願いいたします。入湯税関連でございますけれども、先ほども町長からお話をいただきました。新潟県におきまして、平成20年度、新潟県観光立県推進条例を制定いたしまして現在に至っておりますことは、町長も御承知だと思っております。現在の花角知事は、県行政機構の中に観光局を平成31年度中に設置をなささいよということで、いろんなお話をされておりますけれども、我が町もDMOを核とした観光地域づくりを目指しておられることは、私も承知し

ております。町税の目的につきましてもお話をいただきましたけれども、その一つの入湯税の第1条に課税の根拠及び目的がもちろん掲げられてありました。町長にお話しいただいたとおりでございます。しかし、税収は700万円とそんなに多くはないのでありますけれども、その用途について、その関連業者に、その施設の方々に、その用途の目的が私は十分に伝わっていないのではないかなど、そのように思っております。現状でそういった税がどこにどのくらい使われているのか私も承知はしておりません。繰り返すのでありますけれども、そういったものを関係する業者の方々も全く分からない、そういったお話をいただいております、その部分につきましては、町長はどのようにお考えでしょうか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

入湯税が目的税であるということを知らない方がもしかしたら多いのかもしれませんが。吉野議員の質問をいただいてから、改めましてそう思いました。実際に予算書を見ますと、年間おおむね700万円ほどが計上されているかと思いますが、それでも観光関連の整備費は、それを費やしても足りないという状況にあります。そういうなかで、この入湯税というのが観光の施設の整備に使われているということは、何らかの方法で伝えられるようにしていきたいと思っております。

議長（草津 進）

12番、吉野徹議員。

（12番）吉野 徹

私も他の市町村のことは触れたくないのでありますけれども、実は、お隣の湯沢町におきまして今のようなことが起きまして、そして、平成25年にやはり観光振興計画を新たに策定いたしまして、「湯沢町元気な観光地づくり推進事業補助金交付要綱」を新たに定めました。そして、その内容につきまして、各事業所、関係事業所の方々に集まっていただきまして説明をして、それが今現在に至っているわけでございます。中身につきましては、補助金の区分、事業内容、対象経費、限度額等の詳細のことまで記載がされております。そういったものを新たに作り直しました。是非我が町も、ほかの市町村のことをまねするわけではないのですけれども、是非そういったことを進めていただきたいと思っております。なぜ私がこういったことをお願いするかというのは、そのくらい公民の施設の方々を含めまして関係施設の修繕とか修復とか更新等につきまして、日々大変悩んでいる、苦しんでいるというようなことでございます。もちろん全て100%町行政にお願いするわけではないのですけれども、そういったなかで、是非そういったものにも手を差し伸べてくださるように進めていただけないものかどうか、お願いいたします。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

湯沢町の例を今ほど吉野議員から説明していただきましたけれど、湯沢町は湯沢町のやり方があるのかなと思っております。なぜこんな言い方をするかといいますと、先ほど来言っているように、入湯税自体が津南町の場合は700万円という数字です。それをどう使うのかという話だと思っておりますけれど、平成29年度の決算でも既に報告してあるわけですけれど、観光費として約8,500万円から8,600万円くらいです。観光経費ですね。その中を見ますと、いろいろ項目があります。観光宣伝費もありますし、各種修繕料等もあります。あと、それぞれの委託料とかあるわけでありまして、それを足していきますと相当な額。とにかく町として観光振興に使っているということは、もちろん吉野議員も御理解いただいていると思っておりますけれど、では、それ以上にどうするかということにつきましては、これは新たな事業ということになりますので、今後の財源、その基になる財源があるのかどうかも含めて、またしっかりと検討はさせていただきたいと思っております。

議長（草津 進）

12番、吉野徹議員。

（12番）吉野 徹

私も全てそういったものを関係業者の方々に使ってくださいという話はしておりません。しかしながら、繰り返すのでありますけれども、いろんなそういった関連をする業者の方々が懸命に頑張っているなかで、それほど相談窓口がない。ないのではないでしょうけれども、そういったものに日々悩んでいるということ、町長からもそういったなかで周知をしてくださるというお話をいただきましたけれども、是非とも、そういったなかで行政の方々が気を使っただけで大変有り難いと思っております。というのは、入湯税関係にしましても、もちろんお客様から頂くお金でございまして、税金というのは重々分かっています。各市町村によりましては、その入湯税を払っていない地域、そういった税も無い所もあるわけございまして、もちろん十日町市もありませんよね。入湯税はございません。そういったなかで、やはり町の方々が有効に利用できるようなそういったものに利用していただいて、理解をしていただいたほうが良いのではないかと考えておりますので、早々にまたお願いをいたします。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

入湯税を申告し、納めていただいている事業者の方々が納得できるような使い方、見えるような使い方、その透明性が本当に大事だなというのは、吉野議員の質問を聞いていて思いました。ですので、より透明性の高い説明ができるよう心掛けてまいりたいと思っております。

議長（草津 進）

2番、村山道明議員。

(2番) 村山道明

通告に従いまして、次の点について質問をいたします。

まずはじめに、町長は「希望、愛、参加できるまちづくり」の大きく三つを軸とした住みよい町づくりをする政策を掲げて当選をして以来、5か月が経過しました。選挙公約は、当選後、全力を尽くして実行するものです。今、有権者は、町長がどんな方法でするのか見守っているところでもあります。このことを踏まえてお伺いいたします。

1. まず、平成31年度予算編成に向けての指示・姿勢についてであります。限られた財源の中で効率的・効果的にメリハリのある予算編成を目指すと考えておりますが、そこで、何点かお聞きいたします。
 - (1) 一つとしまして、予算要求に当たって、特にどのような点に留意するよう指示されているのか。
 - (2) 二つ目、重点施策及び選挙公約の実現の重みをかみしめた予算編成の取組についてお伺いいたします。
2. 次に、昨日の大平議員の質問と重なりますが、JA津南町、農業協同組合の合併についてです。今の町政は、農業立町を軸に農協と共に歩んでいます。新たなJA合併構想によると、新潟県を5JAに集約するものです。JA津南町も魚沼1JAとなり、合併協議を進めていくと私は考えております。この大きな合併を町としてはどのように捉えているのか、長として町の見解を伺います。
3. 3点目です。鳥獣害の農作物被害対策についてお伺いいたします。町内、特にニホンザル、カラスなど鳥獣による農作物被害が増えております。今や農山村における内なる社会問題と捉えても過言ではないと考えています。行政は、地域をサポートする役割があります。追い払いに必要な花火器具類の支給補助事業も視野に入れた直接・間接的な支援策を新たな認識に立って講じていただきたいのですが、伺います。
4. 次に、新保育園整備計画についてであります。昨日の風巻議員による質問事項と重なる点が多々ありますが、お伺いいたします。働きながら子育てをする親と子に安心感を保障しなければなりません。今まさに保育園の果たすべき役割は、極めて重要であると考えます。そこで、次の点について伺います。
 - (1) 一つとして、統合計画の説明会がございましたが、その総合評価と来年度の園ごとの入所申込み数をお聞かせください。
 - (2) 二つ目です。来年10月から実施される予定の保育無償化です。政府は検討中でしたが、ようやく10日、国と地方の交渉は事実上決まったと言えますが、今後、町は条例等検討すべきことなどが多々あります。町として懸念される点についてあればお聞かせいただきたい。
 - (3) 3点目です。新保育園の関係の新年度予算要求に、この予算関係を計上するのか、お伺いいたします。
5. 最後になります。津南病院の院外薬局についてお聞かせください。去る11月26日から院外薬局がスタートいたしました。ですが、薬を受け取るまでに待ち時間が長いと言われております。最長で1時間以上ございましたが、このことは、当初より想定内であると認識しておられたのかお聞かせください。
壇上からは以上です。

議長（草津 進）

答弁を求めます。

町長。

町長（桑原 悠）

村山道明議員にお答えいたします。

1 点目、「平成 31 年度予算編成に当たりどのような点に留意したのか」という御質問です。平成 30 年度は、当初予算で財政調整基金と目的基金を合計 2 億 5,000 万円取り崩した予算編成を行い、これにより財政調整基金の残高も平成 30 年度末で 8 億 4,000 万円となる見込みで、極めて厳しい財政運営を強いられております。このことから、平成 31 年度予算編成では、持続可能な財政運営を最優先課題とし、当初予算から財政調整基金を繰り入れることを極力しないことを基本としております。そのため、各課単位の総額で、一般財源ベースで－5%の概算要求基準、シーリングをかけたところであります。

次に、「新年度の重点施策及び公約実現のための予算編成の取組について」でございます。津南町まち・ひと・しごと創生総合戦略や総合振興計画を見ながら、「希望、愛、参加できるまちづくり」の三つの柱を軸に一步ずつ着実に具現化していきたいと考えております。具体的には、津南病院の経営改善、保育園・小学校の環境改善、津南 DMO 設立に向けた「津南未来会議（仮称）」の実施、農業専門人材の設置検討、雪国文化の発信、関係人口の増加やインバウンド対策、生活道路の確保や克雪対策による住みよい町づくり、移住・定住対策、町全体の公共交通体系を見直すための公共交通網形成計画に着手することなどであります。これから予算査定となりますが、事業優先順位や行政が担うべき領域であるかなどを客観的に見極め、予算付けをしたいと考えております。

二つ目に、「JA 津南町の合併について」でございます。昨日、大平議員にお答えしたとおり農協組織の問題であり、合併研究会の検討の推移や組合員の判断を見守りたいと考えております。合併によるメリット・デメリット、どのような業務体制になるのか、津南町農協の方向性などしっかりと組合員に説明していただき、組合員サービスが低下しないように努めていただきたいと願っております。いずれにしても、私といたしましては、地域に寄り添っていくことが大事だと考えております。

3 点目、「鳥獣害の農作物被害対策について」でございます。町内においてニホンザルやカラスなど鳥獣による被害が増加しており、重要な問題と認識しております。昨年度、町鳥獣被害防止協議会にカラス檻の資材補助を行い、今年も沖ノ原に設置しましたが、捕獲はできませんでした。今後も継続して設置を行うとともに捕獲のための方法を関係機関と検討いたします。また、サル檻についても、町猟友会が希望する集落への設置貸出しを行っております。さらに、集落や小規模農家に対して昨年度から実施している自家消費野菜に対する町単独の電気柵補助についても継続して行いたいと考えております。追い払いに使用する花火等に関する支給及び補助についてでございますが、町財政状況が厳しいなか、集落などで対応していただきたいと考えております。

次に、大きな 5 番目の院外薬局についての御質問でございます。11 月 26 日からスタートした院外薬局についてですが、かねてより町内事業者が 1 軒、町外事業者から 1 軒、計 2 軒の出店計画が知らされていまして、院外薬局 2 軒とは、オープン前から円滑な院外薬局業務が行われるよう打合せ会議を重ねてきました。しかしながら、院外薬局では全て初めての患者対応のために、患者一人一人の処方箋データの入力作業などが必要なことなどにより、通常の数よりも多くの人員を配置して対応したようですが、どうしても患者数に対して調剤処理が間に合わない状況があり、病院にも待ち時間が長いと利用者からの声が届いております。病院といたしましては、院外調剤業務がスムーズに流れるための院外薬局

との協力は最大限続けていきたいと考えておりますし、待ち時間の問題に関しましては、徐々に改善していくものと思っております。

以上でございます。

議長（草津 進）

答弁を求めます。

教育長。

教育長（桑原 正）

「統合計画説明会の評価と来年度の入所申込み数について」のお尋ねにお答えいたします。

はじめに「統合計画説明会の評価」であります。先般、地区説明会を開催し、その後、各保育園の保護者を対象に子育て懇談会を行ったところであります。そこでは、子どもは現在の保育環境における現状と課題をお伝えし、統合の一番の目的が子どものより良い育ちのための環境整備であることを説明いたしました。今の保育環境に満足しているからなのか、提案に対する共通理解がなかなか得られませんでした。待機児童の問題に対する危機感も低いようにも感じられるところがありました。また、中津保育園地区を除いて参加者が少なかったため、多くの住民から御意見をいただくことができませんでした。そこで、今後、こぼと・北部の両保育園の保護者を対象に休日の昼間に開催し、より多くの保護者と意見交換を進めながら、統合、新保育園整備に向けて理解を求めていきたい、このように考えております。また、さきの町議会主催の地区懇談会におきましても、保育園整備についていろいろな御意見が出されましたので、保育園整備の必要性について様々な角度から再度検証を行い、保護者や地域に丁寧な説明をしていく必要があると、このように考えております。

次に、「来年度入所申込み数について」ですが、平成30年11月30日現在で、ひまわり保育園92名、北部保育園56名、上郷保育園17名、わかば保育園36名、中津保育園24名、こぼと保育園66名、計291名となっております。

2点目の「国が進める保育料無償化が町へどう影響するのかについて」のお尋ねでございます。3歳から5歳児の無償化及び0歳から2歳児の住民税非課税世帯の無償化について、来年度の年度途中から一部スタート、再来年度は全面的に実施との方向が示されています。国が示すとおり実施すると、平成30年度ベースで年間約3,500万円の一般財源が必要になると試算しております。減収分につきましては、地方消費税交付金の増収分を充てる見通しですが、新たに追加される交付金の配分がどのくらいの額になるのか、今後も情報収集を行いながら注視してまいりたいと思います。

3点目の、「新保育園関連予算を新年度当初予算に計上するのか」のお尋ねでございます。町教育委員会といたしましては、子どもたちにとってより良い育ちの環境を一刻も早く整備することを目指しておりまして、この方針はずっと変わっておりません。保護者や地域、議員の方々とそれぞれ意見を交わし、御理解を得ることができましたら予算計上させていただきたいと、このように考えております。

以上でございます。

議長（草津 進）

2番、村山道明議員。

（2番）村山道明

それでは、要点を絞って再質問させていただきます。

まず1点目の予算編成についてです。今の答弁をお聞きいたしまして、かなりそれぞれたくさん重点政策等々がありましたけれども、町長が当選をした後、予算編成の意気込みとしてマスコミ等に言った事項がございますが、「町民の方々の目に見える評価を行い、全ての分野で事業見直しも行う。公正で客観的な評価も行う。町政事業は、要望あつての事業化である。全職員が関わるなかで、新年度予算の予算編成に取り組む。」というふうに述べておりました。任期は4年ありますので、全部この三つの柱に基づいて頑張る必要はないと思いますし、1年目はその重点政策としても結構ございますが、私はその中で、予算編成の職員への指示の中で一番大事な5点、まず、財源の確保をどのようにするか、受益者負担の適正化をどのようにするか、コスト削減をどうするか、補助金などの再点検をどうするか、事業の見直しをどうするか。事業の見直し等については、昨日、副町長から2年越しで行うというお話がありました。私の考えるこのような5項目について、特に一番何を。先ほど言った－5%のシーリングというのがありますが、私が示した5項目の中で特に検討を指示した事項というのは、どのような指示でありますか。お聞きします。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

村山議員の5項目が早すぎてメモも、聴き取れなかったのですが、財源と事業見直しと受益者の適正化。一番は財源だと思います。こちら指示もしたところですが、当初予算から財政調整基金を繰り入れることを極力しないことを基本とするということが一つと、国・県の補助金を有効に活用した事業を組むということが一つあるかと思ひますし、また、事務事業見直しも財源の確保に関わってくるかと思ひます。事務事業の見直し基準というのも併せて当初予算の編成説明会に臨んでおります。その事務事業基準見直しに沿ったものが上がってくるのか、厳しい目で、また、客観的な目で見ながら精査していきたいと思ひております。

議長（草津 進）

2番、村山道明議員。

（2番）村山道明

それはそのとおりだと考えております。ただ、昨年もマイナスシーリングで実施した経過がございますが、新町長、あと4年間ありますから英断を持って、例えば具体的に何々をカットするだとか、こういう事業は見直すんだとか、こういう町内のある程度の補助金については5%削るよ、というくらい英断を持って意気込んでいかないと、町長が所信表明でも言っている三つの大きな柱というのがなし崩し的にはっきりしないものになっていくのではないかなと、私は危惧しておるのです。もうちょっと突っ込んだ、これはこうするというを一つ二つおっしゃっていただかないと。カラーを出したいというお話があったものですからあえてお聞きいたしますが、財源以外になにかございましたら、お聞かせ願ひたいと思ひます。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

私は、ただ漫然と前例踏襲にしないということは基本にしています。ですので、その中でこれは続けていくべきものなのか、あるいはイノベーションをするべきものなのか、そういうことを考えながら査定したいと思っております。特にとりわけこれからの地域医療の在り方、その中にも町立津南病院の在り方が入ってくるかと思いますが、この地域医療の在り方を一つの大きな課題として臨みたいと思っております。また、もう一つ、昨日から質問がありましたように農業の現場、人がいなくなっているなかで、どうやって後継者を育成して、どうやって生産量を維持して販売額を維持していくかというためにも、農業に長けた専門の人を設置したいと。そのための検討も重ねてきております。今しばらく猶予をいただきたいと思っております。

議長（草津 進）

2番、村山道明議員。

（2番）村山道明

意気込みは分かりました。ただ、これから大事なものは、かなりの議員の方々が御質問をさせていただいているわけですが、人口を増やすということだろうと思っております。人口を増やすということは、私なりなのですが、特に女性の方々を増やしていただきたいということでもあります。当然、若者の転出も減らすことが大事でしょうし、あとは、子育て支援を充実して町外からの転入者を増やすということ、移住・定住によって町外から転入者を増やすということ、これは、この人口ビジョンに書いてございますが、希望する子どもたちを産める、所得を確保するとか、安心して子どもを産み育てられる環境を整備すると。これらは、大体女性を大切にして、その子どもを増やすということだろうと思っておりますし、その策がこれから津南町に一番大事な事項だろうと思っております。農業者、いろいろ政策はありますが、やはり津南町の人口を増やす、失礼けれども、産み育てることのできる女性を増やすという方策を取っていただきたいと思っております。それにも保育園も必要でございますが、その根拠といたしまして、人口というのが年々減っているわけです。40代が201人、30代が後半が206人、30代前半が174人、20代後半が172人、20代前半が148人と、年々だんだんだんだん若い人が減ってございます。母子手帳も発行数をお聞きしましたら、年度ですが、平成28年度は55件、平成29年度は48件、平成30年度は現在まで32件と、母子手帳の発行がどんどんどんどん減っているということは、すなわち女性が産み育てる環境が整っているのかいないのか、ということにつながっているのだろうと思っておりますので、これらを解決するために万全の方策をすることがより良い津南町の若者への支援になっていくのだろうと思っております。そういう点を含めて、町の人口を増やすための方策を取っていただきたいと思っておるわけです。これから4年間あるわけですが、町長の所信表明の中で、「子どもの育ちを家庭や地域と共に全力でということのなかで保育園を建設する。」ということがございます。そのほか、「参加できるまちづくり」で今言った人口を増やすということ。まさにそのとおりであります。そのための財源というのが大変必要でございます。先ほど言った津南病院の赤字関係が主になれば、財源が確保できるのだろうと思っておりますが、津南病院の医師の関係等について、来年度予測できる、要するに常勤医師だとか、診療体制だとか、そういうことを改善して、財政を確保、今以上に赤字が減っていくというような要素が今のところあるのかないのか、お聞かせいただけますか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

数字的な詳細は病院事務長がお答えいたしますが、私この間、医師確保について本当に様々な角度から御指導いただき、また、取り組んでくることができました。長い目を見て、持続可能な病院経営の在り方にするためには、やはり誰でも良いからお医者さん一人来てくれということではないのだなということと、また、長い目を見て、今、初期研修医さんを毎年受け入れていますけれども、5・6年の医学生の実習や引き続きの初期研修医の研修、後期研修医の研修、そういった若いお医者さん方が津南病院に来て、大学では学べない津南町の臨床で経験できることは何なのかということを中心に整理して大学に伝えること。また、こちらに来ていただいたときに、居心地の良さを感じてもらうこと、これだけ経験できて良かったとか、観光に行ったらこんなに歓迎されてとっても心が温まったとか、来てくださる患者さんにこんなに有難がられたと、そんな心地良いエピソードをいかに感じていただけるかなということを中心に思って、そういった大事なことを整理して伝える必要があるのかなと思っております。来年度は、院長先生を中心として大学のほうにも働きかけを引き続き行っていきますし、また、学生を含めて研修医の先生方に対してもプレゼンといいますか、津南のセールスポイントといいますか、そういう伝えるということができるようになればと思っております。また、東京慈恵会医科大学にかかわらず、様々な方面での医師確保、新潟県の地域枠というものもごございますし、様々な角度での医師確保に取り組んでいきたいと思っております。

議長（草津 進）

2番、村山道明議員。

（2番）村山道明

意気込み等については分かりました。それに沿って力強くまい進してほしいと思っております。期待をするところです。やはり先ほど言ったように、財政調整基金の財投はしないとか、-5%シーリングを指示したとかということを書いていたわけですが、そうしたら、一般財源関係でいきますと当然予算は不足していくのだろうと。簡単に計算すると歳入歳出が合わないのだろうと思っているわけです。そうした場合に、一つでいいのですが、では、どこら辺で調整をしていくべきかということをお聞きしたいのですが、答えられる範囲内でお願いしたいのですが。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

当然、歳入が減れば、それに合わせて歳出も削減しなくてはならないと、これは当たり前のことだと思っております。何を削るのかという話ですけれども、それについて今事務方を中心に、まず補助事業をしっかりと精査をしていくということから始めております。そして、最終的に来年、再来年2か年で事務事業の見直しも行うという話をしておりますけれども、しっかりとした事業的なもの見直しは、来年度やりたいと今考えております。そのなかで具体的にどういうものを、それこそ極端な話をすれば、廃止するのか、あるいは縮小するのか、現状維持で行くのか、そういうようなことはしっかりと判断しながら事業仕訳仕分けをしたいと考えております。

議長（草津 進）

2番、村山道明議員。

(2番) 村山道明

分かりました。

では、次にいかせていただきますが、農協合併についてでございます。組合員が一番懸念するところというのは、私ども魚沼1JAにしますと、現在、湯沢がJA魚沼みなみのほうに合併をいたしますが、あと五つの農協というのは、それなりの資金、農産物の売上、様々ブランド化で頑張っております。そういう点で非常に販売力が豊かでもありますし、そういう点では、津南と比べればほかの農協というのは大変厳しくないのだろうと思っておるわけでありまして。そのなかで私ども津南町の組合員が心配しているのが、兼業農家が多いわけでありまして、小規模農家が多いということも事実であります。そうすると、合併後、きめ細かい対応ができないのではないかという心配を説明会后しております。当然、合併に当たっては、先ほどから言っているように合併研究会を立ち上げるだろうと思っておりますし、推進会議も立ち上げるのだろうと思っておりますが、そのなかで当然町に対して参加してくださいという要請があると思います。そこで町の立ち位置というのを、今聞くのもまだ早いのだろうと思いますが、心配しているのが1農協になった場合、本当に農協との距離感です。町と今のJAとの距離感。今は近いわけですが、今度はかなり開いてしまったと、そんなようなことがないように津南町の実情をしっかりと要望に、その研究会に参加して行った場合に、そのように立ち位置をしっかりと臨んでいただきたいと思っております。当然、要請があると思いますが、そういう立ち位置でお願いしたいと思っております。その点はいかがでしょうか。

議長(草津 進)

町長。

町長(桑原 悠)

そもそも協同組合とは、ですけれども、議員には釈迦に説法ですが、個々の小さな経済主体で、市場ではもしかしたら小さくて脱落してしまうかもしれない中小企業、また、自営業、消費者が横に結びついて大きな経済主体を作り、大企業と対等に取引するということが協同組合というものの歴史的、また、社会的な存立理由だろうと思っております。そんななかで農業協同組合に関しては、1949年、ドッジ・ライン、インフレを機としたわけですが、逆にデフレが進行してしまったというなかで、戦後、農協の再建、どうやっていくかという段階になったときに、当時、集落組織総動員で集落座談会をしたり個別訪問をしたりして、組合員から174億円の増資を得た。それによって、戦後、農協が再建されたという歴史があるかと思っております。組合員の増資によって再建したということが「おらが農協だ」という、そんな気持ちの原点になっているかと思っております。今、行政として言えることは、いずれにしても、その経緯に基づいて、また、その経緯の流れのうえにあって、地域に寄り添っていくことが大事だよと、地域に寄り添っていただきたいということだけです。それがまたJAさんが掲げた自己改革の要なのだろうと思っております。

議長(草津 進)

2番、村山道明議員。

(2番) 村山道明

基本的には、そのとおりだと思っております。自己改革のアンケートが昨日、農協から私ども正組合員に対して来ました。確かにそれも一理あると思っておりますけれども、組合員の方々というのは、農協にみんな丸投げというか、心配事をだらだらと言ったとしても、なかなか合併して農協が大きくなれば、閉ざされていく可能性があるということで、では、そういう面で望みとして町のほうからもそういうことが

議長（草津 進）

2番、村山道明議員。

（2番）村山道明

実態が大変でございますので、できれば、そのような検討をしていってほしいと思っておりますので質問したわけです。

保育園に入る前に病院の関係で院外薬局、先ほど、協力したいというお話がありました。今、非常に待ち時間が長いのと、それから、朝等に薬を取りに来る車が薬局前に停まっております。通勤等について非常に危険でありますし、駐車場もいっぱいになりますので、そうするとやっぱり危険が伴うのが現在の状況です。私も朝、見に行ってきましたが、特にひどいのは月曜日とかであります。待ち時間は、それぞれその処方について慣れれば早めになるだろうと思いますが、現況を見ますと、町内の薬局にどどどと流れております。ですから、どうしても時間が掛かるのは、多分ずっと掛かるだろうと思っております。ですから、待ち時間は多分解消できないだろうと思っておりますが、後で取りに来るための駐車場とか、そういう一般の人たちの危険を無くすというのがやはり院外薬局をするに当たって大事な方策ではないかと思っております。これは病院の努めであるのではないかと思っております。院外薬局の人たちがやるべきだということも、それは論理的にはあるかもしれませんが、やはり町がそういう対策も講じる必要があるのではないかと思っております。その点、どのような対策を今後すべきかというお考えがあったら、何点かお聞きいたします。

議長（草津 進）

病院事務長。

病院事務長（桑原次郎）

まず、院外薬局周辺の安全対策ということなのですが、当初、警察の公安に横断歩道の設置を要望していたのですが、その許可が下りたのが11月30日ということで、それ以降、皆さん御存じのとおり天候がなかなか良くなって、業者にはお願いをしてあるところなのですが、まだ引いていないという状況があります。ただ、どうしても困るのが駐車スペースになかなか余裕がないということです。最低限、もし人数的に余裕ができれば、今、見守り隊の方から中玄関のほうで降りた高齢者の方の世話とかをしていただいているのですが、あるいは今、院外薬局へのファックスを送る等のことについても、そちらに加入している方から2名ほどお願いをしているわけなのですが、欲を言えば、もう少し陣容が充実してくれば、横断歩道付近に安全上見守るような方の配置というのができればいいかと、私個人的には、そういうふうなことで考えています。横断歩道については、もしかして12月中が無理であれば、少なくとも3月に降り止まったらすぐにでも設置したいと思えます。あそこの出入りについても、運転される方においては、余り安全の確認が十分なされないまま危ないような感じで出て行く方もあるようでして、なんでもハガキではないのですが、病院にもそういったことも寄せられておりますので、出入りの所に白線と手前に「止まれ」という表示は横断歩道設置の時に一緒にして、安全対策を少しでもしたいと考えております。

議長（草津 進）

2番、村山道明議員。

(2番) 村山道明

そのとおりだと思います。十日町もしっかりと横断歩道がありますし、そういう点で一緒な行動を、そういう横断歩道設置だとかいろいろやってほしいと思っております。手押し車を押している老人を見ますと、大変だなと。右左を見て、まだ駄目だなとかなり待っているのが現状です。本当に早期に解決するようにお願いしたいと思います。

次に、保育園の建設関係であります。平成26年3月の津南町保育園等整備検討委員会の野崎委員長が示された答申の中の2ページにあるのですが、「将来的に2保育園構想を検討するなかでは、新築が望まれる。出生数が60人を超えている現状では、ひまわり保育園を含め2園での保育が適切と考える。しかし、出生数が将来大幅に減少する状況になった場合を考慮すると新築1園での体制移行も視野に入れた環境整備が必要と思われる。」という一文がございます。そのほかに、北部保育園、わかば保育園も順次適切な手順を踏んで統合へ行くというふうに、平成26年3月に答申をされていたわけです。現実的に人数も減っております。先ほど申し上げた母子手帳を交付される方も少なくなっております。これから4年後、5年後になると、なお少なくなるだろうと思っております。それを見込んだ答申の、多分一部ちょっと書き足りなかったということで書いたのだろうと思っておりますが、この答申に沿ったかたちでいくのも私は一つの方策ではないかと思っております。保育とは何かということが皆さん分かっているけれどもまだいいのかもしれませんが、やはり養護と教育が一体となったのが保育でありますのは、皆さん御承知のことだろうと思っております。そのなかで今、4歳、5歳が複式の保育をしている。やはり豊かな人間性を持った子どもたちを育成するには、5歳は5歳の子どもたちの人間性が、その環境をきちっと踏まえたうえで小学校に上げるということが必要だろうと。そうでなければ、だんだんだんだん学校に行って懇談をしたり、教育、子どもの勉強意欲、人間関係、子ども同士のいろいろないさかいがあったりして保健室に行く子どもが増えていくのだろうと考えます。そういうことのないように、この答申という、教育長はよく分かると思うのですが、この答申をなぜ野崎委員長がこのように出したのか、真意がお分かりでしたらお聞かせ願いたいと思います。

議長(草津 進)

教育長。

教育長(桑原 正)

村山議員におかれましては、保育・教育の問題にいつも高い関心を持っていただきまして、感謝申し上げます。保育園での保育、幼稚園での幼児教育、どちらも大事な幼児教育で、その重要性は論を待たないところでございます。私、平成23年度にこの職を拝命して、前町長から頂いた宿題の四つあったうちの 하나가、この保育園の問題でございました。どういうことかと申し上げますと、この人口1万人程度の町で7保育園は多過ぎないかと。統合整備も含めてあるべき姿を検討せよというのが一つの課題でございまして、そこからスタートしているわけです。平成23年度は、園長さん方からレクチャーを受けて、その当時、既に園長さん方は2園程度が望ましいという案を持っていました。私どもは専門家でもないもので、当時は福祉保健課が主管でございましたけれども、上越教育大学の先生を座長にしながら、平成24年度に津南町保育園等あるべき姿検討委員会を立ち上げ、1年間検討。それから、平成25年度に更に具体的にということで、津南町保育園等整備検討委員会を立ち上げ、1年間検討いたしました。その間、県内のほかの保育園の視察等も入っております。平成26年3月に町長に答申が出されたら、こういう経緯がございます。なぜ2園かといいますと、適正規模について議論したからでありまして、津南町の園児数からしますと2園が望ましいだろうと。そのうちの一つは、将来的なこと、あるいは保小の連携のことも考えて津南小学校の近くに新保育園を建設する。そこは、子育て支援センターとか児童館とかを内包する。そういう保育園が良いだろうという見通しが出た

わけでございます。ですので、その後、平成 26 年度から保育園が教育委員会所管になりましたので、私どもは平成 26 年度からスタートしたということでございます。責任は全て長である私なのですが、具体的には、この事業については教育次長がリーダーシップを取ってこれまで進めてきております。御案内のとおり 2 園案を目指して 3 年ほどいろいろと動いたのですが、なかなか用地の問題が乾かず、2 園案、津南小学校のすぐそばに新しい園を造るという、それがとん挫したかたちになりました。そのほか、2 か所検討もいたしましたけれど、それぞれ課題が多くて実現しなかったと。急ぎよ、昨年度になりましてから、では、町有地に建てたらどうかと、こういう経過がございまして、最終的には、答申にも関連で述べられておりますように、将来的に考えれば 1 園というのも視野に入れて考えるとなっておりますので、私は今でもやっぱり 2 園が一番理想だと思っておりますけれども、これは土地問題はなかなか簡単ではないということで 1 園案に落ち着いたということです。これにつきましては、私どもの提案が 270 人規模と申し上げたところなのですが、昨日、風巻議員にもお答えしたとおりもう少し小さい規模という見直しを掛ける必要があると今は思っております。ですので、検討委員会で 2 年間検討した結果ですので、一番尊重したいのはその答申なわけで、そのとおり進めたいという気持ちは今でもございますけれども、そこがなかなか叶わなかったということから今の 1 園案に切り替えたということでございます。ただ、これも石田議員にも盛んに取り上げていただきましたけれども、今すぐ提案のように 1 園になるということは現実的ではなくて、何度もお話していますように、上郷保育園、わかば保育園につきましては、当面このままいくということを申し上げていますので、あとの 4 園が統合したとしても、提案の規模よりはずっと少ない人数での運営ということになります。本当になぜ保育園の関係者が早くそういった整備をしてほしいと願っているかといえば、議員御指摘のとおり、混合保育を解消したいというのがそもそものスタートだったわけございまして、これがまだ解消されていないという現実がございます。

議長（草津 進）

2 番、村山道明議員。

（2 番）村山道明

教育長の言うことはごもつともな点もございますので、慎重に検討していただきたいと思っております。

最後、ちょっと時間がないのでお聞きします。先ほど、無償化についての関係で、一般財源が 3,500 万円減るとか言いましたよね。私、それがよく理解できないといひましようか、分からない点があるのですが、これは国会の総務委員会が出された資料なのですが、5 年間無償になるとか、事務費も 5 年間くるだとか、保育園は無償になるとか、0 歳から 2 歳児は月 4 万 2,000 円までは無償だとかというのが、かなり決まったということを 10 日に私は電話でお聞きしたのです。3,500 万円減るといひのは、何が 3,500 万円減るのでしょうか。お聞かせください。

議長（草津 進）

教育次長。

教育次長（上村栄一）

議員のおっしゃるその 10 日の情報でございますが、まだ私どもは詳細に把握しておりませんのでお答えできません。3,500 万円の根拠でございますが、単純に 3 歳児、4 歳児、5 歳児の保育料を無償化した場合、その合計が 3,500 万円という数字でございます。

議長（草津 進）

2番、村山道明議員。

（2番）村山道明

分かりました。

以上で質問を終わります。

議長（草津 進）

5番、筒井秀樹議員。

（5番）筒井秀樹

通告に基づいて質問させていただきます。

大きく2点ございます。

1. 1点目は、津南町のキャッシュレス化の取組と現状についてお聞きします。消費税対策やオリンピックに伴って、国策として観光立国をうたい、キャッシュレス環境の飛躍的改善が進められているわけですが、津南町としての今後の取組と現状をお伺いします。民間企業に関しては、個々若しくは組織的にこの流れに乗っていかないと衰退してしまうと思われませんが、行政としても新しいお金の流れを作る取組のお考えをお聞かせください。
2. 二つ目は、学校等統廃合に伴い、活用されていない備品の活用についてお聞きします。小学校、中学校等の統廃合でピアノや各種備品が活用されていない現状があるわけですが、このまま放置しておいても将来的には廃棄処分となり、財政負担になりかねません。古くなり壊れる前に精査して、下取りに出すなり、公募で売却し財源として活用するようなお考えはありませんか。
壇上では以上です。

議長（草津 進）

答弁を求めます。

町長。

町長（桑原 悠）

筒井秀樹議員にお答えいたします。

非常に時期を得た御質問をいただきました。津南町議会の中で独自性を発揮され、このように御指導いただいておりますことに感謝申し上げます。

1点目、「津南町のキャッシュレス化の現状と取組について」の御質問でございます。国では、本年4月にキャッシュレス・ビジョンを公表しました。このビジョンでは、2025年大阪・関西万博に向けて設定したキャッシュレス決済比率を現在の20%から40%に引き上げる目標を前倒しして取り組むこととなっております。そのため、7月に産官学によるキャッシュレス推進協議会が設置され、本格的な活動が開始されました。また、消費増税での軽減税率ポイント還元対策や2020年東京オリンピック・パラリンピック開催によるインバウンド消費拡大対策においても、国では喫緊の課題として検討していることは御案内のとおりであります。当町のキャッシュレス化の対応については、商工業や観光業者から直接的な事業要望はないものの、町内事業者が一体として取り組み、カードなど利用者やインバウン

ド来訪者に対し利便性の向上と消費拡大が図られるよう期待したいと考えております。そのためには、津南町商工会はもとより関係機関や団体と共に事業者に対し講習会など必要な対応を検討するとともに国の動向も注視しながら事業推進をしていきたいと考えております。いずれにいたしましても、私といたしましては、このキャッシュレス化の現象は社会現象になると認識しております。

次に、二つ目の質問ですが、「既に使われなくなった学校備品等の処分について」のお尋ねであります。学校の統合により使われなくなった備品等につきましては、町内の各学校や保育園、町関係施設において再利用しております。その後、閉校となった学校を別の用途で再活用する場合は、校内にある備品を一斉に処分する必要があることから、再度、学校や保育園、町関係施設から見ていただき、使用できるものを選定しております。この後も相当の備品が残りますので、学校区の地区振興協議会や地域住民に対して備品の再利用をお願いしているところであります。議員御指摘のとおり、価値ある備品については公売し、収入を得たいところではありますが、そのような備品もほとんど残らないような状況であります。残った備品を公売して売れるのかどうかの判断も難しく、その数・種類も多岐にわたり、公売することは現実的に難しいのではないかと考えます。

以上でございます。

議長（草津 進）

昼食のため午後1時まで休憩いたします。

—（午前11時44分）—

—（休憩）—

会議を再開し、一般質問を続行いたします。

—（午後1時00分）—

議長（草津 進）

5番、筒井秀樹議員。

（5番）筒井秀樹

再質問させていただきます。

先ほどの答弁ですと、町のキャッシュレス化の具体的取組が見えてこないもので、例えばひまわり畑の駐車場のお金の管理とか、雪まつりスカイランタン等でもキャッシュレスに馴染んだ観光客がおみえになると思いますが、町としてキャッシュレス化の取組をどのようにしていくか、お考えをお教えてください。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

先ほども申しましたとおりキャッシュレス化は、もはや社会現象になるものと認識しております。

「PayPay（ペイペイ）」というスマートフォン決済サービスを御存じであるかと思えます。ものすごい勢いでございます。これは「Alipay（アリペイ）」、中国勢ですよ。世界最大の決済プラットフォームと言われる「Alipay」と連携して、「Alipay」ユーザーは「PayPay」でも「Alipay」でも決済できるということになっています。キャッシュレス化を推進するのであれば、「PayPay」が今とても勢いがありますし、商店街の皆さんから勉強していただいて取り組むのが良いのかなと思っておりますけれども、そう思っていた矢先に先週、塩沢信用組合様の勉強会がございまして、町からも数名参加させていただきました。恐らく議員の皆様方も取引のある方は出席された方がいらっしゃるかと思います。飛驒信用

組合様、飛騨市、高山市、白川村をエリアとしている地方銀行でございますが、とても先験的な取組を行ってきておりまして、「さるぼぼコイン」という取組ですが、もう数百の店舗が加入し、そのコインが貯まれば貯まるほど地域経済が回るという仕組みになっています。また、当初からインバウンドを想定した仕組みとなっております、「Alipay」と連携することも視野に入れた取組をされてきたということでございます。大変勉強になりました。そこで、ただ利便性を向上するのであれば、既存のサービスを皆で勉強していけばいいと思いますけれども、例えば飛騨信用組合様がやっている「さるぼぼコイン」のような取組にこれから向かっていこうということであれば、津南町だけではマーケットが小さすぎるなど思っております。飛騨信用組合様のお話も少し聞きました。やはり「1万人規模ですと少し小さすぎますよ。」ということを言われました。「魚沼エリア、あるいは雪国観光圏のエリアで取り組むのであれば、とても希望のある取組になりますね。」というアドバイスをいただきました。キャッシュレス化が進んでいる今日において、そのような独自の取組をこれから今進めることが適切かどうか、時期を逸していないかどうか、研究しなければいけません、とても希望のある取組なのではないかと思っております。今後、地方銀行の皆様や関係機関の皆様、また、近隣の市町村長などとも話し合いをさせていただきながら、可能性があれば是非向かって行ってみたいと思っております。

議長（草津 進）

5番、筒井秀樹議員。

（5番）筒井秀樹

「PayPay」はQRコード決済がほとんどです。今、国の方向性とする、ポイント還元はクレジットカードとICカードによる決済でポイント還元という方向だと思うのです。「PayPay」だと民間業者としては、まだちょっとハードルが高いのかなという感じです。「PayPay」で使うのであれば、例えばひまわり畑で寄附をお願いするとか、山道の環境保全のための寄附をお願いするとか、QRコードを貼って町としてお願いすればいいのかなと思っております。さらに、今町長もおっしゃった地域通貨に関しては、過去10年の間に様々なものが出来ては潰れ、出来ては潰れ、運用できていないというのが現状なのですけれど、例えば町として、もっと具体的に言うと、保育料とか子育て支援住宅の家賃とか、給食費とか、学校用具とか、行政の窓口、水道料等々、クレジットカード払いにすると便利ではないかと思うところもあるのですけれど、そういったものの取組はお考えでしょうか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

公共料金のクレジットカード払いですか。私、すみません、先行事例のことをよく調べていないので、お答えできませんが、それが町民にとって利便性がある、一利便性があるのは、実感として恐らく分かります。また、行政の体制としても、人員、様々な行政資源ともにそんなにコストが掛からず向かえるというものであれば、取り組む価値はあると思っております。

議長（草津 進）

5番、筒井秀樹議員。

(5番) 筒井秀樹

今後、国の方針が定まって、多分民間のキャッシュレス化はどんどん進むと思うのですが、町のいたる所で、例えばスマートフォンを持っていけばどこでも決済できるという環境になれば、もっと若手の利便性も増えるのかなと思って提言した次第でございます。

次なのですが、二つ目の学校の備品等々についての質問です。現時点でも大型商品というところでピアノや電子黒板等、有効活用できるのに眠っていると思われまます。バスも公募で売却するようですし、新しい財政収入として、少ない額かもしれませんが、新しいお金の流れを作って、行政の管理備品のスリム化をするということは考えてはいませんか。

議長 (草津 進)

副町長。

副町長 (小野塚 均)

今の行政が管理している備品ということなのですか。それとも、ここで言われている廃校の校舎の備品という意味、どちらでしょうか。 — (筒井議員「そのどちらもという意味です。」の声あり。) — どちらもという意味ですか。学校の統廃合に伴う備品については、今ほど町長が答弁したとおりにかなと思っております。確かにピアノはあるのですが、例えば2階にあるとか、体育館にあるということになると、それを搬出するだけでも相当な経費が掛かるということで、最終的にはもうお金にならないというようなケースがあります。そして、それ以外のものも使えるものは、とにかくほかの学校でまず使う。あるいは町の公共施設で使うというようなことをやっていますので、残っている物については、数が多いこともありますけれども、正直に申し上げてほとんどお金にならない。その手間のほうがより掛かるというような状況のなかで、今、廃校する備品については、最後はその関係する地域の皆さんから見ただいて、必要な物は使っていただく、それ以外の物は焼却をしているというような状況です。それから、町の管理している備品等については、今言われたようなものが本当に効率的なのかどうか、その辺のところもしっかり精査しないとかなかなか、では、これはすぐやりましょう、あれはできませんと区別するのは非常に難しいかなと思っています。

議長 (草津 進)

5番、筒井秀樹議員。

(5番) 筒井秀樹

10年前に言っていた電子黒板等々はそろそろもう壊れていくのではないかとされるのですが、それも何もせず眠らせておくということでしょうか。今現在、多分12台ほど電子黒板等々も残っているかと思うのですけれど。

議長 (草津 進)

教育次長。

教育次長 (上村栄一)

その電子黒板が12台あるとおっしゃいましたが、旧中津小学校においては確認できておりません。今、実際にどこの小学校に幾つあるかというのはこの場では申し上げられないのですが、旧中津小学校ではございませんでした。

議長（草津 進）

5 番、筒井秀樹議員。

（5 番）筒井秀樹

もったいないので、是非とも有効活用していただければ有り難いと思います。

以上です。

議長（草津 進）

13 番、恩田稔議員。

（13 番）恩田 稔

通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

私は、前回の定例会でも観光を取り上げ、特にインバウンドについてお聞きをいたしました。またかと思われるかもしれませんが、これからの町づくりには、どうしても観光を絡めないに進まないと思っておりますので、今回も引き続き観光関連の質問をさせていただきます。

1. まず 1 点目は、津南町 DMO についてです。先日、津南町 DMO の勉強会が、職員、観光協会理事、議員向けに行われました。地域を元気にする観光について講演をお聞きし、考え方や進め方について大変参考になり、積極的に取り組むべきと考えました。しかし、多くの自治体、津南も同じだと思いますが、観光といえば観光関連の人たちが考えればよいことであり、農林業、工業、地域住民には直接関係ないという考え方が一般的であります。まして、中心的な人は、しがらみにとらわれない人でなければならぬなど、ハードルは非常に高いものだと思います。前回の定例会でも少し触れましたが、今回の勉強会を踏まえて、今後の進め方について伺います。
2. 2 点目は、交通アクセスと飯山線についての質問です。上越新幹線越後湯沢駅、北陸新幹線飯山駅ともに車で 1 時間程度の距離であるにもかかわらず、地理的優位性が生かしきれていないと考えております。今後、この課題にどう向き合うのか、お考えを伺います。
壇上では以上です。

議長（草津 進）

答弁を求めます。

町長。

町長（桑原 悠）

恩田稔議員にお答えいたします。

議員の着実に積み重ねてこられた取組のうえに重い言葉を感じ、答弁させていただきます。

1 点目、「津南町 DMO について。勉強会を踏まえてどのように進めるのか」という御質問にお答えいたします。11 月 28 日に大正大学清水慎一先生をお招きし、津南町 DMO 勉強会を開催いたしました。町政の柱の一つである津南ブランドづくりのために DMO の意義と内容を学ぶ研修でしたが、町議会議員、町職員、観光協会の理事さんなど、観光振興に最も身近に関わりを持たれている方々にお声掛けさせていただいたところ、約 90 名という大勢の皆様からお集まりいただきました。誠にありがとうございました。この勉強会では、町民の皆様を主体とした地域づくりという観光客のニーズを踏まえた地域振興

の話合いを一体的に継続的に積み重ねていくことが必要であるということ。そして、様々な業種の方や団体、行政など、メンバーで連携して取り組むことが必要であると学びました。観光地域づくりには、議員も御案内のとおり散発的な攻めでは勝てません。「津南町全体が観光資源ですよ。来てください。」というゆるいものでも勝てません。津南町の強みを整理して絞り込み、ブランドを作る、その役割を担えるのがDMOだと考えております。突破口は、DMOを軸に地域ブランドづくりに取り組むことしかないと思っています。今後の津南DMOの進め方につきましては、来年度において「津南未来会議（仮称）」を設立して、協議を始めたいと考えております。メンバーを公募し、短期間で津南町の課題や解決策を探ります。次に、コンセンサスを図るための設立に向けた住民会議を重ね、時間を掛けて身の丈に合った観光地域づくりプラットフォームを形成していきます。同時に、組織形態や事務局体制、具体的な実施事業など予算や体制を検討しながら、法人設立に向けて準備したいと考えております。

2点目、「交通アクセスと飯山線について」の御質問です。飯山線からは、JR飯山線で「おいこっ」との運行、また、今年から「走る農家レストラン」の津南町コースが運行されました。一昨年には、念願でありましたSL運行がなされ、誘客入込みに大きな影響を与えたことは記憶に新しいところであります。また、越後湯沢駅からは、本年夏に開催いたしました「大地の芸術祭」において、毎日オフィシャルツアーが運行され、タクシーや路線バスの利用とともに新幹線利用客の大切な来訪手段になりました。しかし、昨年10月の路線バスのダイヤ改正により、越後湯沢駅から秋山郷方面への連絡に不便をきたしており、利便性向上のため、交通事業者と共に検討していきたいと考えております。また、二次交通につきましても、地元観光事業者を交え、特に紅葉シーズンの来訪者をターゲットに越後湯沢駅からの送客について検討したいと考えております。越後湯沢駅は首都圏、飯山線は関西圏・中部圏からの入口であり、1時間以内の津南町は、PR不足等により、その地理的優位性が活用しきれていない現状は認識しております。ひまわり広場や雪まつりのほか、広域で実施している雪国観光圏や苗場山麓ジオパークなど、各種事業と連携したり、来年度に実施される「新潟県・庄内エリアデスティネーションキャンペーン」などを活用したりして、津南町のPR宣伝、情報発信を進めていきたいと考えております。

以上でございます。

議長（草津 進）

13番、恩田稔議員。

（13番）恩田 稔

それでは、再質問させていただきます。

前回の定例会の時にも、このDMOにつきましては、少し触れさせてもらったのですが、私自身がその時には、そんなに積極的に取り組むものなのかなという印象だったのです。雪国観光圏があるじゃないかと、そんなふうに思っていたのですが、今回の清水先生のお話を聞くと全く考えが変わったといいますか、本当にその講演で話されたことというのは、全くそのとおりだなと、本気にそう思いました。どこの市町村、津南ももちろんそうなのですが、観光協会とか、地域振興課商工観光班とか、要するに毎年のイベントを回すだけでいっぱいいっぱい、戦略的にどうしようあしようというところまで恐らく手が回らない状況だと思うのです。そういうなかで、この前のお話というのは非常に勉強になったわけでありまして。私もDMOについてはいろいろ調べていたのですが、先生が言われたような理念ですとか、本来こうあるべきだといったようなことというのは、余りインターネットで検索しても出てこないのです。補助金のもらい方とか申請の方法とか、いろいろそういった類のものが圧

倒的に多くて、私はそれが非常に印象的だったのですけれども、皆が集まって話をするような場がDMOなんだといったような話は、インターネットでは見られなかったものですから、本当にこの前の（勉強会で）私自身も非常に考えが変わったわけなのです。本当にそんなふうな町になればとか、実際に成功している所のお話なんか聞くと、是非そういったものを目指したいというようなことは本当に思いました。昨日、たまたま新潟日報さんに町長の定例会見の記事が載っていたのですが、「津南未来会議（仮称）」も今ほどの答弁で分かりましたし、来年度に設置するというようなことは分かりました。初会合を6月に開催ということが出ていましたけれど、具体的には、一歩目というのはどんなことから始めるのか、それをまずお願いいたします。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

一歩目ですか。そもそも、まず課長会議の中で「DMOってなんだろう。」という所から始まり、「まず職員の中で勉強してみるべきじゃないか。」という声が上がって、また、それに加えて「議員さんにも聞いてもらうべきだ。観光協会の理事さんにも聞いてもらうべきだ。それだけでは足りない。今、実際にイベントで主軸になって動いてくださっているキーマンの皆様方にも聞いてもらうしかない。」という話になりまして、先日の勉強会になったところです。そこでDMOとは何かという理解が少し進んだのではないかと考えております。これを踏まえたなかで、来年度、「津南未来会議（仮称）」というものを立ち上げて、津南町のこれから向かって行く方向はどういうことなのだろうかという論点の整理をしたいと考えております。メンバーは公募によって選びたいと思いますが、4月に募集を始めまして、5月にメンバーを決定、6月に初会合としたいところです。また、議員も以前おっしゃいましたとおり、コーディネーター役、まとめ役が大変重要になってくるのではないかと考えております。思い入れの強い津南の方々を調整し、まとめるわけですから、大変な作業になるかと思っております。人生を掛けて観光に取り組むのだという、そんなコーディネーター役をお願いしたいと思っております、そういう人は必ず津南町の中にいると思っております。

議長（草津 進）

13番、恩田稔議員。

（13番）恩田 稔

この前の勉強会、これを公募を始める前にもっともっと広く多くの町民の皆さんに聞いてもらう、知ってもらおうということ、それを聞いたうえでの公募のほうが私は良いかと思うのですが、そんなふうにはできないものですか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

もっと広い町民にということですね。前向きに検討したいと存じます。

議長（草津 進）

13番、恩田稔議員。

(13 番) 恩田 稔

この前の終わった後ですけれども、観光協会の理事さんも、すごく取り組みたいというような思いの方も何人もいましたし、やっぱり聞いた時はものすごく熱くなりますけれども、だんだん時間がたっていくにつれて当然冷めてしまう部分もあります。せっかくここまで1回目をやったわけですから、町民全員というわけにはいかないでしょうけれど、さっき町長が言ったように、そういった関係の方とか、そういった人にもこの前のお話を聞いていただいたうえで公募のほうが私は良いと思います。検討していただけるということですので、そこら辺については、お願いしたいと思います。

それと併せて、既に大小150くらいのDMOがあるとされているのですけれども、当然うまくいっていない所もいっぱいあるわけですね。そういう所が要するにどんな原因で失敗するかというのも、自分たちは後からいくわけですから、当然知ることはできますよね。そういったことというのは、現在、調査というのか、今はどこの部署がどうか全く組織は無いのでしょうか、町長はそういった部分について何か調べたりしたり、あるいは、調べておいてくださいと指示を出したりとか、そういったことは今の時点でされておりますか。

議長 (草津 進)

町長。

町長 (桑原 悠)

よく研究して、先行事例なども見ていかなければいけないと思いますけれども、これを進めるに当たって、関係課長や副町長などともよく話をしたのが、行政の役割とDMOの役割の関係性。これは、皆さんがよくじっくり話し合って納得して進めないとうまくいかないよねということになりました。DMOは民間ベースで、それを行政が側面支援・精神的支援をするという位置付けで是非進めていきたいと思っております。行政が先に出過ぎず、町民の皆さんのスピードも見ながら進めていきたいというところで、それが一つの決定的な成功・失敗要因になるかと思えます。

議長 (草津 進)

13番、恩田稔議員。

(13 番) 恩田 稔

そうですね。この前、先生も急ぐなと言うのは、本当に皆で共有しなさいという意味なのだろうと私は理解したのです。当然、行政主導でもなければ、そこら辺の組織がどんなふうにするのか一番良いのか難しいのですけれども、行政主導ではないことはもう間違いないと思うのです。だけど、そこにもっていくまでどんなふうにしていくかというのは、やっぱり恐らく最初は行政がやるしかないわけで。そこら辺のボタンのかけ違いは致命傷になるかも分からないので、そんなところを町長はどんなふうを考えているかということをお聞きしたかったのです。慎重にやられているようですから、それでよろしいかと思うのですけれども、やっぱり失敗している所というのは、まず組織ありきみたいなところを一般的には言われていますよね。本当に皆で共有したものについてがきとうまくいっているのだと思いますから、是非、失敗した所とか、うまくいかない所というのも並行しながらきっちり進めて慌てず。成果を出すことを急ぐわけではないのですけれども、取り掛かりは急いでやっていただきたいと思っています。

それから、いろいろ関連があるのですけれども、次の交通アクセスと飯山線について伺いたいと思っています。町内のことというのは、今ほどのDMOでうまく進んでいけばいろいろ整理されて解決するのだと思って期待しているのですが、恐らく時間も掛かることですから、それだけやれば良いというわけ

ではありませんので、並行して進めなければならないこともたくさんあると思うのです。例えば交通アクセス。今ほど町長答弁で、いろんなアクセスの部分を話していただきましたし、イベントの時にこんなふうをしているというのも答弁いただきました。私が今回いろいろお聞きしたいのは、要は、普通の日常の交通を考えていきたいのです。というのは、津南町ってそんなに大きい団体をぼんと泊められるような、もともとそういう所ではありませんので、通年で来てもらえるようなことというのはやっぱり一番大事だと思うのです。「雪国観光圏」も私もずっと前から何度もお話しさせてもらいましたけれど、二次交通の問題が全く進まない。二次交通もありますけれど、例えば、もしかしたらまだ一時交通がちゃんと整備されていないのではないかと、そんなふうに思うのです。ですから、津南駅に人が降りないのに二次交通もないでしょうし、中心部に人が来ないのに二次交通もないと思うのです。要は、福祉でやるのだったらできるかも分からないけれど、経済活動としたら無理な話ですよ。そんなところをどのように考えるかということなのですけれど、平成27年の3月に北陸新幹線が開業して、当然、私たちは誘客について期待をしたわけですが、飯山には、関西・中京圏からの誘客が可能になるということで、津南町も関西圏・中京圏にも、数は分かりませんが、宣伝に何回か行っていると思うのです。飯山駅にもパンフレットを置いている。車で1時間くらいで行ける所なのに、私が見ている限りでは、そんなに大した影響は無いのかなと思うのです。行政サイドで見たときに、これは数値とか何かでどうこうというのは難しいと思いますけれど、北陸新幹線ができて、たった1時間の所に津南はある。これについて感想といいますか、どんなふうに思っていますか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

北陸新幹線ができての感想、効果ということだと思いますが、課題があるなと思っいることがあります。それは、長野方面から入ってくる線と、また、その線が繋がって湯沢まで向かうという線の接続が必ずしも十分ではないのかなと。どこを基準にしているのか分かりませんが、どうも津南駅にいるとちぐはぐだなと思う時刻表の時間もあります。そういうそごといいますか、合わない所は、やはりJRさんであったり、国土交通省の鉄道局であったり、ちょっと実情を知っていただく必要があるのかなと思っいます。そこで、来る来年の2月23日なのですが、北野塾さんの主催で「飯山線を考える会」というのをやるそうなので、是非そこで皆さんの課題共有の会にさせていただいて、解決策を探っていきたいと思っっています。駅のにぎわいづくりの機運醸成としては、活用していきたいと思っっています。様々な課題はありますが、また議員から御指導いただければと思っいます。

議長（草津 進）

13番、恩田稔議員。

(13番) 恩田 稔

湯沢、飯山から津南に来てもらうために、どんな交通が考えられるかなと思うのですけれど、もちろん飯山線は一つありますよね。では、バスとかレンタカーとか、もっと言ったら中山議員が何度も何度も言っているように自転車とか、要するに、こちらから何らかのかたちで来てもらうアクセスというのをやっぱりもっともっと説明しなければ分からないのだと思うのです。ですから、湯沢からのバスもあるのですけれど、この前も私、バスがありますと話をしたのですけれど、今の方は皆スマートフォンで調べるのですよね。とにかく、森宮野原駅行きのバスなんてインターネットでは分からないらしいです。そういうこともありますけれども、今後、飯山線をもうちょっと何とかするという方向に進むの

か、あるいは、バスみたいなものを考えるのか、あるいは、レンタカーを借りた人に少し借りやすくするとか、何かしらそういう手を打たなければ、いずれにしても飯山からのお客様は余り来ないのかなど、思ってしまうのです。では、もう一つ、湯沢からのほうはどうですか。これもやっぱりなかなか難しい部分があると思うのです。私はいつも交流している人には、ちょっとでも近いふうに説明したいので、「東京から湯沢まで1時間20分くらいです。車で四、五十分ですから、2時間ちょっとくらいで津南にお出でいただけますよ。」といつも言うのです。結局車なのですよね。だから、結構送り迎えをせざるを得なくなるのです。町長も東京にもいっぱい行くでしょうし、いろんな方とお会いすると思うのですけれど、津南に来るアクセスは、町長はどんなふうに説明をされますか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

例えば、「東京駅から越後湯沢駅まで乗ってきて1時間半、そこからバスで45分ほどです。」と説明します。ただ、そのバスの本数を数えてみれば分かるように、本当に便は必ずしも良いとは言えないのが実情だと思っております。

議長（草津 進）

13番、恩田稔議員。

（13番）恩田 稔

必ずしもなんていう感じではなくて、絶対だめですよ。無理だと思います。本当にそれくらい合わないと思います。今回は持ってこなかったのですけれども、これからの旅行がどんなふうになっていくのかというのがいろいろ出ています。旅行会社がいろんな話をしているのを聞きますと、やっぱり大型でどんどん来る時代ではないと。旅行会社が今これからどんなふうになるかというのは、要は団塊の世代は1,000万人と言われているらしいのですが、そういう人が恐らくこれからの国内旅行のけん引役になるだろうと。それは小グループであったり、個人客になるだろうといろんな旅行会社が言われていることなのです。そのときに、もちろん今の高齢者は若いですから、車で来る方もいるでしょうけれども、でも、やっぱり公共交通は絶対に私は必要だと思うのです。そこで、資料を見ていただきたいのです。これはただ時刻表を写しただけなのですけれども、要は、この①は関東方面なのです。湯沢駅。例えば、東京発8時52分で津南に着くのが12時19分、3時間27分なのですけれども、この8時52分までには5本くらいの東京発があるのです。だから、始発に乗っても津南に着くのは12時19分までなのです。一方で、②は関西方面なのです。金沢を9時21分に乘って津南に12時46分、これも3時間半くらいなのです。だから、自分で旅行するとき、朝出て2時や3時に着くといったら、やっぱり嫌いますよね。だから、ほとんどもう観光には使えない飯山線だと私は思っています。それはしょうがないのですよね。今は通学のための列車ですから。通学に合わせた本数を運行させているのは、もうしょうがないと思うのです。けれど、JRさんだって、ただもって増やせとか、走らせろということではなくて、雪国観光圏と言われるこのエリア、これは雪国文化でもまたほかと違った素晴らしいものがあるということは、非常に高く評価されているわけです。だから、地域で、広域で、こういったことを取り組んでいただきたいのです。それは私、JRさんとも前に話したことがあるのですけれども、決してここにそういうことができないということではないと思いますよ。「ただ増やせ増やせと言ってもらっても困るけど、いろいろどんなことをすれば良いかということは、研究する価値はあると思いますよ。」ということを言われたことがあります。是非、広域でこういったことを、観光のための列車とい

いますか、要するに観光客がふだん利用できる列車を増やして、それで初めて飯山駅、湯沢駅、あるいはこの一帯を周遊できるような、そういう地域に私はできるのだと思うのです。そうすることでもっともって、イベントのときにいっぱい来るのではなくて、イベントではないときに少しずつお客さんが増えて、旅館であっても通年で少しずつお客さんが増えているようなことをやっぱり町としたらすべきではないかと私は思っております、この資料を今回付けさせていただきました。それと、もちろん町づくり、あるいはいろんな観光も含めてですけれども、国・県の補助ももちろん大事です。だけど、私が町長に期待したいのは、いわゆる民間の投資をどれだけ呼び込めるかというところを実は非常に期待しているのです。それは、一つはこういうことだと思うのです。国・県ではなく。これだって JR さんがここに投資するということですから。そういったことを私は是非やってほしいと思っています。民間の投資もいろんな種類があると思いますけれども、こういったことというのは、町長はどんなふうにお考えでしょうか。民間投資ということにおいては。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

きっと JR さんもいろいろ考えてくださってのイベント列車になったのだらうと思います。日常的なマストツーリズムからの脱却、個人旅行客という言葉も聞かれるなかで日常的な訪問場所にするためには、やはりイベント列車から始めたのかなということを知っていて思いました。確かに利便性は良くないです。私もある旅館さんに来た外国の方から言われました。「どうやってここに来ればいいのか。非常に不便です。お客さんを増やそうと思っているのですか。」と言われました。民間事業者にとってのメリットをもう少し見いだして伝えなければいけませんけれども、周辺の市町村などとも連携しながら働きかけはしていきたいと思っております。

議長（草津 進）

13 番、恩田稔議員。

（13 番）恩田 稔

先日の勉強会で徳島県の大歩危、岡山県の真庭市について、先生が成功事例でお話してくださいました。大体場所は分かっていたのですが、改めて地図を見て、ああ、やっぱりここだなということで見えていました。ちなみに大歩危は、東京駅を 6 時に出ると 11 時 40 分に着くのです。たった 1 回の乗換え。8 時に出ても 1 時半。真庭市というのは、中国山地の山陰と山陽の真ん中、山のちょうど中心ですよ。すごく遠い所なのですが、それでも 6 時 50 分に東京駅を出ると 1 時 26 分に着くのです。地図を見ると、なんで津南はこんなに。全然立地的に恵まれているなんていうものではないなと思ってしまいました。これはもちろん行政が列車を走らせるわけではありませんから、行政にどうだこうだということではない点も分かるのですが、ただ、やっぱりこれが観光が伸びない結構大きい問題だと私は思うのです。これは津南だけで解決できるわけではありませんから、いわゆる津南の DMO を立ち上げたとしても、ここら辺については、なかなか難しいと思うのです。ただ、10 月 2 日の新潟日報の記事なのですが、関係があるというところだけ、申し訳ありませんが読ませていただきます。「新潟県の拠点性向上を目指し、県市長会と町村会が設立した『にいがた拠点化・活性化検討会議』が開かれた。広域的な観光圏で自治体が連携して誘客や魅力づくりに取り組む観光振興策や、県内での移動時間を短縮する交通体系整備などを盛り込んだ将来ビジョンの原案が示された。会議は、県全体の将来ビジョンを市町村の意見を基に作成し、県と連携して実現を図ろうと昨年 11 月に発足。30 市町村長を構成

員に文化、観光、産業、交通、空港、公安の三部会で検討した。ビジョンでは、新潟、長岡、佐渡、湯沢、妙高の市長を情報発信や集客の拠点となる広域観光拠点都市と位置付け、インバウンドや関西首都圏からの誘客・集客を進め、接続交通を整備して、県内滞在型の観光周遊を促進する。」と、こういったものが出ていたのですが、これは市長会、町村会それぞれで、恐らく皆さんで相談したうえで知事に上げたと思うのですが、この会議に津南町は、どんなビジョンを持って要望とか意見を述べられたのか伺います。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

その会議は、とにかく県内の拠点化の向上ということであります。今ほど言われたように、交通でいけば5地点とかいろいろあるのですが、中身的には、津南町としてここの部分をどうしようああしようというような議論はほとんどありません。もう少し大きい、要は県内全域の中での話をしていまして、その接続がどうのこうのというのも一町村のどこがどうだとか、そういうような議論はほとんどありません。

議長（草津 進）

13番、恩田稔議員。

（13番）恩田 稔

そうなのですか。もちろん津南町、栄村さん辺りが飯山線の中でも一番困っている所かなと。もしかしたら、魚沼の中でも津南が一番困っているのかなと思うのです。だから、こういう所でなんとか言ってもらえるようなものかなと、これを見る限りでは思ったのでお聞きしたのですが、そういうことなのですね。分かりました。そうしたときに、いずれにしても、津南町だけで解決できないわけですから、広域でいろんな所で。今、町長は「いろんな所でそういった話をします。」というお話でしたけれど、広域だっていっぱいあるわけですよ。ほくほく線沿線地域振興連絡協議会、飯山線沿線地域活性化協議会、雪国観光圏推進協議会、関東観光広域連携事業推進協議会、新潟県国際観光テーマ地区推進協議会、「うまさぎっしり新潟」観光推進協議会、私が見ただけでこれくらいあるわけです。こういうことを提案したり、皆さんに話をして賛同してもらって、こういう所で今の飯山線をもう少し活性化させるようなことというのは、話し合いできるような会議ではないのでしょうか。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

今ほど言われたように数は相当あります。それぞれ目的があって、その目的に合致した市町村が集まってやっているというなかですので、全体をひっくるめて話をするというのは、非常に難しいのかなと。いろいろなそれぞれの組織の中で検討しながら、それがうまくつながっていけばいいのですが、なかなかそれをつなげるというのは、非常に難しいのかなと。特に広域広域と言われても、では、湯沢から津南、あるいは中里が広域と言われても、関係性とすれば津南町と十日町市と栄村くらいしかないわけです。それを広域でやれと言っても、なかなかその辺の意思統一というのは非常に難しいのかなと思っています。

議長（草津 進）

13番、恩田稔議員。

（13番）恩田 稔

栄村、津南町、中里と今話がありましたけれど、そうではないと思うのです。要するに、飯山市だって、長野のほうに行くお客さんは長野に行ってしまうわけでしょう。やっぱり飯山線でこっちのほうに動かすようなお客さんが降りなければ、飯山市だって降りる人は少ないと思うのです。だってその先に行くのだったら、長野で降りたほうが良いわけですから。だから、そんなにここだけ、自分たちだけが得するというのではなくて、この全体の広域の地域にお客さんを呼ぶということだと思うのです。この地域が全体で人を呼べば、多分それは長岡とかそっちのほうだって随分変わると思うのです。だから、北陸新幹線ができる時に長岡と違ってすごく危機感を持ったじゃないですか。北陸新幹線ができることによって上越新幹線が減るというようなことで。だから、この地域全体を考えれば、決して津南とか中里だけが良くなるとかそういうレベルではない、もうちょっと上のレベルで皆に働きかけてほしいなと思うのです。平成25年に「JR飯山線のリニューアルによる地域活性化戦略」というのを新潟県経済同友会十日町懇談会の方がおみえになって、ここで説明をされましたよね。その時も「この地域は自然に恵まれた雪国という共通の特性のもと、それぞれの歴史と文化が根ざした祭り、イベント、スキーなど冬季スポーツ、レジャー施設やそれぞれに特色のある温泉など、多くの観光資源に恵まれており、ほかの地域にはない独自の雪国文化を生み出している。長野、飯山、十日町、長岡を結ぶ、こういった所を整備することによって新潟県全体が良くなるんだ。」というふうな提言をされたのです。この後どういうふうになったのか追いかけていなくて申し訳ないのですが、せっかく広域があるのだから、やっぱり広域で取り組む。もちろん、今ほど副町長の言っていることも分かりますけれど、それよりも少し「この地域全体が良くなるんだから、皆さんお願いします。」といったようなことを是非私はいろんな所でやってほしいのです。またいろいろありますけれど、どうですか。来年度、是非そういったことをどんどん話していただけないですか。御意見をお願いします。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

足りなかったところは副町長がお答えしますが、私としては、議員が課題としているそれを解決するために形成された会議が雪国観光圏の二次交通の勉強会だと思います。ですけれど、現実には議員がおっしゃいましたとおり、なかなか厳しいものがあるというのが本当のところだと思います。そんななかで新潟県全体で見ても、平野が広がる地域と私どものような山間地、二つのエリアがあると思っております。特に魚沼の山間地の中でも、山一つ越えなければいけないという津南町の不便さは際立っているものがあると思います。ですので、まず、この山間地のことをより県や、また、そのお隣にもしていただくということが大事だと思いますので、周辺の近隣の市町村長などとも連携しながら発信はしていきたいと思っております。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

私も恩田議員の意見に賛成です。ただ、非常にハードルは高いのかなというような思いをしながら今聞いていました。というのは、利便性が良くなって出来る限り通年でということを経済交通に、というようなことなのですけれど、本当にこれは私はハードルは高いのかなと。その前に、では、どうやってこの津南に観光客を呼んでくる方法があるのか、もう一度そこから考え直していくというのも一つの手なのかなと。将来的にそれが大きくなってきて、恩田議員が言われるような、そういう交通体系になってくれば、津南町としても大変有り難いのかなと、今はそんなふうに思っています。

議長（草津 進）

13番、恩田稔議員。

（13番）恩田 稔

もちろん、交通の利便性が良い所に人がいっぱい来るかといったら、決してそういうことではないことは分かります。だけど、あくまでもそのDMOをやりながら、これから5年か10年掛かるかも分かりませんが、それをやると同時にこれも進めていかなければ、絶対なんていうことは言いませんけれど、やっぱり難しい部分は出ると思うのです。そして、この前、実は三箇で「定住お試しツアー」というのをやったのですけれど、大阪から女性が1人参加してくれたのです。話を聞くと、やっぱり関西の人はこっちを魅力的に見ているのです。関東と違って。北陸新幹線も今はまだ金沢までですけれど、もう既に敦賀まで工事が始まっているわけですね。大阪までもうルートは決定したわけじゃないですか。それは10年後になるか分からないですけれど、間違いなくつながるわけですね。そのときに、またこの前の金沢までの時と同じようなことではなく、やっぱり飯山からこっちのほうに来られるようなことを私は町としても考えてほしいし、広域で、火焰街道の協議会だったら長岡までですね。それぐらいのところで、なんとかこういうものがテーブルに上がるように私はやってほしいのです。昨日、さっき言ったDMOのほかにもう1個気になる記事があったので見たのですけれど、これも新潟日報さんで、LCCで来県した観光客にアンケートを取りました。これはLCCなので、新潟-大阪なのです。新潟にはLCCは入っていないので、大阪から新潟にLCCで来るお客さんにアンケートを取ったことが昨日出たのですけれど、75%が新潟に泊まっている。だから、今回、この会議のことが書いてありますけれど、これは新発田のほうでやられていて、「市町村で観光振興に取り組む職員ら30人が参加した。新潟市から足を伸ばしてもらえよう交通網の整備や認知度の向上に取り組む必要性を痛感している。」と。結局、自分の所の知名度を売ることも必要ですけれど、やっぱり交通網の整備。こういうところがやっぱり解消されないと、そうそうお客さんを増やすことは難しいのかなと。ですから、DMOはDMOでもちろん町内のことはきちんと、この前、清水先生が話されたようなかたちで丁寧に進めることは進めていただくほかに、できたらこういったところを広域でもってテーブルに取り上げて、皆さんに協力を願っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

以上で終わります。

議長（草津 進）

7番、中山弘議員。

（7番）中山 弘

最後になりますが、よろしく申し上げます。

私の質問は、農協の合併についてでございますが、私は農家育ちですが、弱小農家で育ったので、農協を誠に分からない人間が質問するわけなので、よろしくをお願いします。私の前に農業のプロが、昨日一人、今日二人、質問していただきましたので、ほとんど答えたのかなと私は思っていますけれども、このど素人が考えた、また、これから心配しているところを質問しますので、ひとつよろしくお願いたします。

1. 町長がまだ学生当時の頃、国の方針でもって合併特例法、1995年に出た合併の案でございます。

津南町の場合は自立、農協さんもそうですが、町全体がだめになってしまうのではないかと、そういう心配から私もその説明会には何箇所か行って見たのですが、合併しないで自立ありきのような説明が多かったと思っています。私はその当時は「合併しないと大変かな。せめて長岡と合併したいな。」と個人的な思いがあったのですが、それから13年もたっています。その当時、農協の職員に友達が何人かいるのですが、「今、合併すると大変なことになるんじゃないか。津南町は大変だよ。」そういう声が聞こえていた、その時代です。それからたった13年です。今、この津南町の合併が良かったのか悪かったのか、いろいろな意見があります。旧川西町、隣の旧中里村、それは農家のことだけではなくて行政面で、はてな、これは良かったのか。余り良いことは聞こえていませんけれども、今回、私どもが知らない間に、町もよく分かっていない、そういったときに、寝耳に水ではないけれども、「農協が今度合併するんだ。最近、津南町の農協の支所が無くなってきて、これは大丈夫なんかな」と思っているうちに、生活センターが代わったんだてや。おい、どうなってらんだらうな。」そこまではまだ心配していなかったのですけれども、今回のように、5年計画の構想が出ているので、ほとんど決まりじゃないかというのを聞いた時に、農業を知らない私は、市町村の合併よりももっとも大変なことが起きるのではないかと思います。私は昔、国道17号線の塩沢で営業していたことがあるのですけれども、国道117号線と国道17号線は途方もない差があります。東京のすぐの街道、隣は東京という感覚です。ちょうど新幹線ができたり、高速ができた当時なので。南魚沼というのは東京だなというくらい、東京ではやったものが1年そこそこで国道17号線沿いに来ます。それから山一つ越えて津南に来るのは、二、三年たってから。いろいろなブームが、その頃はゲームの機械とかそういうものがあつたのですが、やっぱりそのくらいの時間が掛かつたのです。今はものすごく速い時代になって、電波だけが早く来ています。ここでもって、私どもがこの国道17号線沿いの方たちと津南町農協というものが合併したときに、どういうことが起きるのか。私はそれを今回、「まだ山とも川とも分かっていないのにそういうことを言うな。」と言うかも知れませんが、年寄りの心配と違って答えられたらお願いしたいと思います。前回は町主導でやったのですけれど、今回は農協主導で町全体が動いていくということなので、町の思いとかそういうものがなかなか農家に届かなくなったり、指導的な立場にある行政というのがどの位置に立つのかと、そういうことをお聞きするわけです。津南町と農家、これはどうしても切り離せない。昨日からも農業立町農業立町と、すごく農業立町というのが出ていますけれども、農家と津南町は一体ですよ。そして、農家と農協。私は小さい頃から農協に世話になっている、そういう村ですけれども、それも一体です。ということは、農協と津南町、行政というのは、本当に切っても切り離せない、そういう立ち位置にあると思っています。これを昨日から聞いていると、余り真剣みがないというのは失礼なのですけれども、「それは農協の問題でしょう。」というのは、一度二度と聞かれたので、それは困ったものだなと思って質問させていただきます。当然これは相当影響を与えると思っていますので、一つに、農協の再編・合併についてのことです。

(1) 津南町認証米、これは前町長も一生懸命でやって、一つの形になり、これからもまだ伸びるといふ段階にあります。今、土づくりとか、そうやってまた新たに津南のブランドとしてやっていこうと頑張っているところです。これから6市町で合併したときに、新たな名称。新之助ということではないですけども、この大きな農家がつながったときには、新しいコメの銘柄ができるのかなどのを私なりに想像しているので、さて、私たちの津南町認証米はどこかのほうに隠れてしまうのかなと、その心配をしております。これを町として本当に差別化して、「これは違うんだ。津南町のブランドなんだから、ひとつお願いします。」と、そういう立場であると思います。私はインターネットでちょっと調べても、津南町認証米はどうやって調べると津南町認証米が出てくるのかなというくらい魚沼産コシヒカリ、魚沼コシヒカリ、一般コシヒカリ。一般コシヒカリというのは、相当な範囲ですが。そういった差別化をどのように考えているのか、お聞きします。

(2) それから、ブランドと言っていると思いますけれども、カサブランカ、アスパラガス、雪下エンジン、スイートコーン、こういうものも実際に町長も参加して頑張っているわけなのですが、こういったものを農協と町とどの位置に立ってやっていくのか。これは喉から手が出るほど欲しい品物ではないかと私は思うのです。国道17号線沿いの方たちも。それが農協に納まってどうかたちで津南町の名前を残すのか。津南町のある業者が「私たちは絶対に津南という名前を出して、コメでも何でも出さんだ。」という力強い話も聞いているので、それもやはり影が薄くなるのか心配しているところです。

(3) 3番目に、当然人口が少ない。昨日からも人口が少ないと。全部人口が少ないために起きる問題です。今回の合併によって、津南町農協というのがそばになく、当然支所みたいなもので残るのだと思いますけれども、さて、就職するのにまた一つ近場にできる数が減るのではないかと私は懸念しています。「いや、六日町に本店があるんだから、六日町に行けばいいじゃないか。」という楽観的なものとは思いますが、全体的にはやっぱり、人口、雇い、従業員、これを少なくしていくのではないかと想像できます。そういったときに私どもは、いくらなんでも人口はこれ以上減らしたくない。どこの誰が6,000人なんて言ってらんだというくらい、津南町を心配している。また、十日町のほうは、「町が無くなるのは津南のほうからだろう。」という話も出ています。無くなつては困るのです。

2. それから、同じような絡みになっているのですけれども、二つ目には農業関係です。先ほどの人口と一緒に後継者。「後継者がもういなくて、何十町歩もしていらないだども、おらはこれでやめる。」というのも実際に聞いています。そして、昨日から大分言われているDMO。これは1年や2年でできないんだよ、5年、10年かけてやるんだよというのを皆さん勉強したわけなのですけれども、ここまできると大変な時間がかかって後継者がいなくなると。これは、やはり教育。子どもの頃から、楽しい農業、なんぎくない農業、もうかる農業。農業というのは、本当は自然にやさしくて、友達がいっぱいできる、生活しやすい、そういうのが農業だという、そういう教育を子どもの頃から身に付ける。幾ら親の背中を見ていても、学校に行って勉強したらちょっと違ってきたなというのでは困るのです。本当に楽しい農家、これを小さい時から勉強というよりも肌に沁み込むような学校教育というのでできないものか。私はそれを思って今回、教育長には、学校で学んで生きる喜びというのを子どもたちに教えれば、60年後には必ず今とは違う後継者が出るはずだと思いますので、ひとつ答弁をお願いしたいと思います。

よろしく申し上げます。

議長（草津 進）

答弁を求めます。

町長。

町長（桑原 悠）

中山弘議員にお答えいたします。

まず、「農業協同組合の成り立ちについて」、村山道明議員にお答えしたところですが、戦後の農協、組合員の出資によって再建したということは、私たちは忘れてはならないと思います。集落組織を総動員した集落懇談会や戸別訪問などで174億円を集めた。そして、国の奨励金が30億円。とういことは、増資の80%は組合員。組合員の力によって農協が再建された。それが「おらが農協」の原点であると思っております。行政と言えることは、いずれにいたしましても、地域に寄り添っていただくことが大事だということです。また、津南町農協と津南町行政、それぞれ独立した機関ではありますが、歴史的には非常につながりがあったと思っております。

「津南町認証米と新農協米（仮称）との差別化と指導はどのようにするのか」という御質問であります。津南町認証米については、生産者が町で定めた統一した基準に基づき栽培しております。津南町農協が合併した際、農協以外の集荷業者からは、引き続き取り組んでいただけたと考えますが、新農協がどのような指導を進めていくかは現時点では分かりません。引き続き津南町認証米が認知されるように、しっかりと栽培することが重要であると考えております。また一方で、農協も一コメ流通業者であり、各流通業者が競って魚沼産、津南産の名声を上げると、そういうことに津南町認証米が役立っていく。また、それに引かれるように、他の野菜や農産物も相乗効果があると思っております。

二つ目に、「津南ブランドの生産物の保持はできるのか」という御質問でございます。カサブランカや雪下ニンジン、アスパラガスに代表される津南ブランドの生産物の保持についての御質問であります。津南町は、国営苗場山麓事業に取り組み、県内でもトップクラスの園芸産地としての地位を築いております。その畑地で生産された農産物は、他の地域で生産されたものと一味違うと自負しております。高品質なものは、新農協でもセールスポイントになり得ると考えております。引き続き津南ブランドの野菜や花として認知されるようにしっかりと栽培することが重要であると考えております。

三つ目に、「就職先が少なくなることによる人口減少対策について」の御質問であります。農協が合併することにより業務体制がどのようになるか不明であります。すぐに事業所が無くなるということは考えにくいことから、引き続き雇用が図られるものと思っております。したがって、すぐに人口減少につながることは考えておりません。職員の新採用につきましては、新たな組織の問題であるため、今後の職員の採用の動きを見守りたいと考えております。

私からは、以上となります。

議長（草津 進）

答弁を求めます。

教育長。

教育長（桑原 正）

中山弘議員のお尋ねにお答えいたします。

「農を以って立町の基と為す」の町是のとおり、農業を基幹産業としてきた当町にとって農業後継者の問題は、最重要課題と言っても過言ではございません。しかしながら、農業後継者は減少の一途をたどり、なかなか歯止めが掛からないのが現状と認識しております。では、どうしたら農業にチャレンジする若者が育つのか、大変な難題をいただきました。議員御指摘のように、学校教育は一つの大事な柱であると考えますが、学校教育だけで解決できる課題ではないと思われまます。何よりも、今、農業を営んでいる方々がなお一層創意工夫を重ねるなかで、もうかる農業を創造していくことが、楽しい農業、豊かな農業につながるものと考えます。では、当町にとってもうかる農業とは、品質が高く、安心・安全で、おいしい農産物を生産し、付加価値を付けて高く売る、そういうことではないかと思ひます。もちろん簡単なことではございませんが、町内には、農業の様々な分野で成功している方々もいらっしゃるわけでございます。こうしたもうかる農業が町全体に広まり、農業に携わる喜びを子どもたちに直に伝えていくこと、それが農業を目指す人が増えていくことにつながるのではないかと思ひております。さて、これまでの当町における農業に関する教育活動としては、小学校低学年の生活科における野菜作り、JA津南町の御支援によるどろんこ体験学習、高学年の田植えや稲刈りといった稲作体験学習、あるいは中学生の職場体験、修学旅行時に行っている津南野菜の販売や健康まつりにおける出店販売などの取組がございます。こうした学習活動に子どもたちは興味を持ち、嬉々として取り組む子が多いわけですが、それが農業を職業として選択するということにつながっていないという現実がございます。若者が農業に魅力を感じ、やりたい職業として選択すること、それには、農業の魅力を様々な角度から発信し続けることが肝要ではないかと思ひます。最後に、教育委員会といたしましては、これまで実践してきた、津南を愛し、誇りに思ふ子どもの育成を目指したキャリア教育を柱に、農業と教育といった観点から更に工夫して取り組めることはないものか、学校現場と連携しながら取り組んでまいりたいと思ひているところでございます。

正対した答えになったか分かりませんが、以上でございます。

議長（草津 進）

7番、中山弘議員。

（7番）中山 弘

先ほど、合併の話をしたのですけれども、この当時、湯沢町さんと津南町が合併を選ばなかったわけです。湯沢町さんは観光、これはもう大きい力がある。津南町は、苗場山麓の開拓事業、これがなから終わり、これで農業でもって津南町は自立できるんだという、そういう力の腹から出たものがあったからこそ合併を拒んだのだと私は思っているのです。昨日から副町長の答弁にもありましたけれども、農協の説明会が20か所でやられたそうですけれども、残念ながら私はそこに出ることができなかった。知らなかったですね。無知で分からなかったです。それでお聞きしたいのですけれども、こういう話が出たのは、多分大分前に話があったと思うのです。その時に津南町として聞きに行ったのか。「農協さん、今度のこういう話を聞いたんですけど、どうなんですか。津南町は大変なことにならないですか。」と聞きに行きましたか。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

町として農協には聞きに言っておりません。また、農協からも話もありません。

議長（草津 進）

7番、中山弘議員。

（7番）中山 弘

私が尋ねているのは、それほど重要視する問題ではないということなのでしょうか。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

重要視するとかしないとかというよりも、要は、農協の内部の話がそもそもの発端です。11月に県内のJAの代表者なりを集めて、そこで話をしたということがスタートでありますので、それからの話ですから、私どもとすれば、それをどうだったああだったと聞きに行くこともなかったし、また、農協から「こういうことではいきました。こういう話が出ました。」というようなこともなかったです。

議長（草津 進）

7番、中山弘議員。

（7番）中山 弘

これは別に責めているわけではなくて、町民が本当に「おい、どうなってらんだ。心配だな。」というのが、その声からの私の質問なので、農協さんが悪い、町が悪いと言ったりしているのではなく、昨日から言っている何でも行政に頼るなというのも分かっています。ただ、先ほど壇上で言ったように、これは津南町がひっくり返るかというくらい大騒ぎする大事なことだと思っています。できたら、農協さんに行って、「これはどうならんだろう。」と言うくらいはしていただきたかったですけれど、残念です。これからもまだ遅くはないので、町民が来て、「おい、農協が合併するてんじゃねえか。」と言われたとき、どう答えるのですかというのを「おら聞いてねえすけ、おらも行ってねえし分からなね。」と、これは行政ではないと思うのです。実際に農協と議会と行政、関係ないなんて言うてはられない。実際に産業建設常任委員会では、JAさん、農業委員、そういう方たちと、これからの農業と今までの農業はどうなったかという、そういう会議だってやっているではないですか。それを知らなかったでは済まないと思うのですけれど、もう一度お願いします。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

町民が町民がという言い方をしますけれども、要は農協ですから、まず、農協の組合員ですよ。組合員がどう考えるかと。農協のこの構想の説明を受けて、組合員がどう考えるかということが、まず最優先ではないかと私はそんなふうに考えています。

議長（草津 進）

7番、中山弘議員。

（7番）中山 弘

それは考え方の相違というか、全く私とは違う考え方なので。それは農家の方は町民ですよ。今、専業農家とか販売している農家、そういう人数を調べてみますと、相当な数の方が従事している。それから、兼業農家。昨日から大分兼業農家の話も出ています。大げさに言うと、8割がた農家に携わっているのではないかと思うくらいの津南町です。それは組合員の問題であるかもしれませんが、私は、やはり町を担っている、それから、私であれば、こういう席に出させてもらっている、「いや、おら知らなかったよ。」とはとてもではないけれども、「それは組合員の話じゃないか、お前たに従うよ、町は。」これではちょっとね、私も自分の知り合いにどう説明していいか分からないくらい困っています。ただ、5年だからまだ時間があるし、そう焦ることもないし、それはどうなるか分からないよという、いつものことなのですけれど、どうなるか分からない分からないと言って、「あらららら、もう合併すらんだてや。農協の支所には10人くらい置かんじゃねえか。」という格好になったら、さて、その前に手を打っておけばよかったなということになりかねないので。私の質問は、本当に農家の、兼業農家の。今まで説明でも何でも、ちょっと持って行って、農機具納めて取ってくれらんだというのがどうならんのだろうかとか。本当に農業に携わっている人は、今心配していると思いますよ。「今度はどこに、十日町に持っていかんかい。いやいや、一時は残さんだ。一時って、その後どのくらい残さんだ。」と、そういうことを心配しているのです。今、町長は2回も3回も「これは組合員が戦後、174億円掛けて農協というものが再建された。」と言っていますけれども、それは今まで行政だと明治の合併、昭和の合併、平成の合併。ただ、農家の場合は、こんなにニューヨークでも日本の農協と言って大騒ぎしたくらいのところ、町から消えていくのではないかと、そういう心配ときには、小学生やこれから生まれてくる子どものことを考えたときに、津南町は大丈夫なんだ大丈夫なんだと言われるでしょうか。お聞きします。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

町民がということなのですけれども、町民の中に組合員がいるわけですよ。先ほど言われたように農家戸数はかなり多いわけですから、ほとんどの方が組合員であると言っても過言ではないのかなと思います。ですから、当然その組合員の立場として、町がどうかではなくて、まず農協だと思います。どうなるのだと、どういう説明をするのだというのを組合員がしっかりと農協に確認をして聞いてもらうということが、まず第一番ではないかと思っています。それから、町は農協の方針に従うということは、全く今までも町長の答弁の中でも発言はしておりません。あくまでも「組合員が納得できるように

しっかりと説明してほしい。あるいは、メリット・デメリットをしっかりと説明してほしい。どういう体制になるのか、それもしっかりと説明してほしい。」というのが町のスタンスですから、決してそのままになるということを町は容認しているということではありません。それからもう1点、昨日も話をしましたけれど、来年3月に合併の研究会を立ち上げると。その合併の研究会には、津南町農協も参加する方向で進めているわけです。要は、そこでどう今後進めていくのか、あるいは、どのような形態の農協をつくるのか、まずそういう細かな所からすり合わせをしていって、その後、では、合併した場合のメリット・デメリットはどのようなのだ、こっこの体制はどうなるのだというようなところに話が通常ですとなっていくと思っています。ですから、まだそれも全く分からないうちから、正直に申し上げて心配のしようがないというのが現状でございます。

議長（草津 進）

7番、中山弘議員。

（7番）中山 弘

十分に分かっているのです。だから老婆心というか、余計なことかなと言いながら、準備はしておいたほうがいいんじゃないかなと、そういうところがございまして、お尋ねしているのです。町長のなかでも寄り添った農協、これは要になると思うのですけれども、今言った3月の研究会には、当然行政は入るのですか。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

その研究会がどういう研究会かも分かりませんし、行政に入ってくれとも入らなくていいとも、そういう話は今のところ全くありません。

議長（草津 進）

7番、中山弘議員。

（7番）中山 弘

来年度の3月ではなくて今年度の3月だと思うので、これはすぐそこなので、もし電話一本でも何でも、どういうふうな感じなのかくらいは聞いていたほうが良いと思いますよ。結局、呼ばれてなかったとあって、また半年もずっとどこかに行ってしまう。できれば、研究会に入れさせてもらって。そして、農協というのは、さっきから住民、町民と言って、私も住民であり町民であるので、お隣の親戚みたいなものだから、もっと親しく話をする。「どうなんだや、心配しているぞ。」というくらいの感覚で、もっと気楽に行って、気楽に教えてもらえるようなことをしないと、やれやれということになってからでは。年を取ったから老婆心で言っているのです。だから、そういうところをもう少し町民に「心配しりゃいらねんだよ。ねら、安心していいんだよ。」こういう説明をできるように、研究会に行って早くしてもらいたいのです。それと一緒に、今回は逆のかたちでもって、農協自体があの大きな土地を持っているところですけども、うちの田んぼのコシヒカリの作付けの農地が千幾つだと思ったのです

けれど、向こうのほうは8,000近くあるくらいの、ああいう所と農協が合併したときに、当然、向こうのほうも私のような何か訳の分からないことを言っている人がいると思うのです。「合併によって町が、市が、こういうふうにならんだども、これは困ったもんだ。どうする。」と。大体大きいものに吸収されるのが常ですけれども、行政同士の、南魚沼市、魚沼市、ああいう旧六日町、もう全然レベルが違う。湯沢町さんとは交流が少しあるのですけれども、私が議員になってから、六日町や塩沢の向こうのほうの議員とはどうなっているのかよく分かりません。これから当然、行政同士の擦り合いとか、そういうものが出てくると思うのですが、幾ら小さい町でも手を挙げて、先に「よろしく願います。そちらさんはどうなっていますか。」くらいのことは考えていますか。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

現状からしますと、魚沼地区で合併するというので、津南、十日町、小千谷、北魚沼、魚沼南、塩沢という、この六つなのです。これは私も農協から聞いた範囲なのですが、正直に申し上げて、農協自体の温度差も相当あると。表現が悪いかもしれませんが、例えば県大会でこういうような方針が出ているから、では、その方針に沿ってやろうか、あるいは、もう全くやりませんか、うちの農協は別の方向を考えていますとか、6農協なのですけれども、相当温度差がばらばらです。ですから、行政もそういうような段階で、例えば南魚沼市どうですか、あるいは魚沼市どうですか、というのは、なかなか話もしづらいし、逆に向こうも知らない場合があります。「それはなんですか。今、どこまで話が進んでいるんですか。」というような話になりますので、その辺についてももう少し動かないと、行政同士がという話は難しいのかなと。決して仲が悪いわけではありませんので、他の市町村とも私どもは常に一緒になるときは、いろんな課題を話しながら対応してきていますし、農協もすぐそこですから、また、農業立町ということで、車の両輪のごとく進んできた組織でありますから、別にそれで情報のそごがあるとか、疎遠になっているとか、そういうことは全くありません。私どもは、必要があれば、もちろん出かけていきますし、農協だって、これは町に話をしていきたいということがあれば、当然、町のほうにも話に来ると思っております。

議長（草津 進）

7番、中山弘議員。

（7番）中山 弘

誠に良いことなので、規模は違っていても率先して何でもリードを。昨日からも出ているけれども、誰がリードを取るのかとか、リーダー的なものはどういうものになるのかとか、これはどんな小さな町でも、どんな大きな市でも、やっぱりリーダー的なものがあって、そこから波紋が広がる、そういうふうには私は思っているのです。先ほども出てきたDMOというのも何度も出てくるのですけれども、あれが全てではないと私は思っています。だから、5年掛けてそれができるのであれば、5年掛けて私たちも準備を進めていかなければならない。これは良し悪しではなくて。そのリーダー的なものは、先ほど言ったようにやっぱりみんな行政に頼るんじゃないというのは誰でも分かっていますが、一番そういう情報が入ったり、今も初めて聞くようなものもありますので、そういうものを是非副町長、リーダー

的にやっていただきたいと思っています。町長はまた町長の役目がありますので、それなりにまたやっていただければと思っています。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

中山議員から農協についてのお話、また、町民と農協がどれほど強いつながりがあるかというお互いの再確認ができて、大変有り難く存じます。農協も一流通業者であると思っています。町内には、様々な業者がいらっしゃいますし、また、直販で頑張っている方も増えてきております。そんななかで、各業者、各農家が競って津南町農産物の名声を上げるということであると思っています。行政といたしましては、農協さんがどのようなかたちを選ぼうが、市町村農政がとってもこれから大事になってくると思っていますので、是非、町には農業・農政に長けた人材を置きまして、できれば先手先手を打った農政を進めてまいりたいと思っていますので、今しばらく猶予をいただきたいと思っています。

議長（草津 進）

7番、中山弘議員。

（7番）中山 弘

猶予は幾らでもありますので、私が決めるのではないのですけれども、良い方向に行けばと思っています。

せっかく津南で作っても、仮に南魚沼のほうが悪いとか良いではないのですが、ただ、そっちのほうにこのアスパラガスはどういう名前が出るのかなというのは、ちょっと心配なのです。これは今までも農協さんが、ある方も私も思っているのですが、もう少し発信という宣伝・PRの仕方も変われば価値感が上がってくるのではないかと。今回、町長選挙で大分津南町が良し悪し関係なく名前が出たわけですから、そういうどこに行っても津南と。合併になったとしても、「このサツマイモはどこだ。」

「津南。」と。「この花は。」「津南。」と。津南町認証米というか、私なりですが津南米でいい。「津南米というのはすごいね。『つなん』と読むのか。あそこの町の米かい。」と。インターネットを見たって、魚沼産コシヒカリ、魚沼産コシヒカリ、津南なんて出てこない。今度はもっと影が薄くなると思うので、是非。昨日、石垣田の話の中に、「そういうところをサイドから支援していく。」という町長の話がありましたけれど、石垣田は私も親戚みたいなもので、そうやって支援していただきたいと思うのですが、今度は町全体をそうやって横からバックアップしてやらないと。農協さんが頼りにならないというのではないのですけれども、ちょっと距離が出たなというところは、やはり行政であり、私どもが「いや、大丈夫なんだよ。すぐ行ってきますよ。十日町でも何でも行ってきますよ。」というような仕組みを作らなければならないので、そういう発信、これからだと思うので。猶予ということなので、余り「こうしれ、ああしれ。こうするんですか。」とは言われなくなりましたけれども、猶予のあるうちに考えていただきたいと思います。

それでは、余りこのどうなるか分からないものに皆さんの時間を使って申し訳なかったのですが、教育の面です。それはいつも言っている川で遊べとか、山で遊べとか、そこでもって津南町の子ど

もなんだというのを再三言っているのですけれども、今、教育長から話を聞いたなかでは、もうほとんどやっているのではないかと。ああ、これもこれもみんなやっているなど。その中に給食の話が出てこなかったのですが、本当に最近私は招待給食に行っていないのだけれども、小学校の給食、あれは本当に素晴らしい農家の方々がやっている。これはここん家んしょがやっている、これはここん家んしょがやっている、もう少し顔が見えたり、そこの家の家庭まで、こうやって幸せで楽しいんだよいうのが出てくると更に良いかと思うのですけれども、まだ足りないものがあつたらひとつ。もう少し、今までやっているキャリア教育、出店、どろんこ、野菜作り、みんないろいろやっているとと思いますけれども、更にあつたとしたら何がありますか。

議長（草津 進）

教育長。

教育長（桑原 正）

今、議員が御指摘のように、おいしさを直に子どもに伝え、もっと伝えることが重要かなと私も思います。ちょうど先般、地元の小学校で招待給食というのがございまして、私も招待され、おいしくいただきました。年に1回の招待給食、私が楽しみにしているくらい本当においしいです。今の校長は、世界一おいしい給食だと子どもたちに自慢しております。私もそのとおりだと思いますので、私たち、あるいは教育現場にいる皆さんが、この津南産のコメも野菜も本当に世界一うまいんだということを実際に味わいながら、しっかり子どもたちに掴ませておく。そして、外に出たときに、いかにおいしかったかというのがまた振りかえられるわけですので、そうした面からの取組も、津南を愛する子どもの育成につながるかなと思います。具体的にそうしたおいしさを伝える活動として、まだ何かあるかどうか。「グリーンマントの会」の皆さんはじめ、地産地消でお骨折りいただいている皆さんは大変多くいます。またそうした方々が柔軟なアイデアを持っているかもしれませんので、教育委員会と学校、あるいは地域のそういった皆さんとも情報交換するのも大事かなと思います。

以上です。

議長（草津 進）

7番、中山弘議員。

（7番）中山 弘

ほとんど私の聞こうと思ったことは納得できました。ただ、これからですので、本当に小さい農家も大きい農家も5年後はどうなるか心配、そのくらいの感覚でいると思います。それから、時代の流れは早くて、あれよあれよという間に過ぎていきますので、町の立ち位置、それから議員の、議会の立つ場所、確かにあれもこれも玄関先の何かまで持って来るなど言いたいくらい、皆さんは行政という、役場というものを信頼して、頼りにしているのです。是非、この農協合併だけでなく、できれば外に行って吹雪の中を見てみたり、そういう一体になって考える、そういった町に、誰でも住みたいなという町に、皆で頑張ればできると思いますので、よろしくお願いします。

終わります。

議長（草津 進）

以上で一般質問を終結いたします。

以上で本日の日程は全て議了いたしました。

明日は定刻の午前 10 時に開議することとし、本日はこれにて散会いたします。

—（午後 2 時 46 分）—